島田三郎　安部磯雄　監輯

廓清

第三巻　第貳號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

目次

△矛盾せる行政處分……寺田四郎
△近代思想と公娼問題……三輪田元道
△藝娼妓の爲めに授産局設置建議……田邊實明
△外國に於て嘗めた苦き經驗……安井哲子
△栃木縣人と娼妓……KY生
△惡制度顚覆の期刻々迫まれり……風馳生
△お客論……鬼面居士
△學生航海中に婦人を救ふ……郷司慥司
△不貞潔と人生の悲劇……角谷和市
△廓清會紀要……記者
△會員の奮鬪……

東京　廓清會本部　發行

會員の義務

一成るべく同志を糾合して會員の増加を圖ること。輿論の勢力を作るには同志の一人にても多からんを要す。

一不用の雜誌は可成知人の間に廻付して主張の徹底を計ること。

右會員諸君が、自らのデューチーとして御實行あらむことを希望す。

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
宛に　上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

(注意) 前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名儀にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正二年二月十五日納本　一部定價金六錢
大正二年二月十五日發行　(每月一回十五日發行)

編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　益富政助
印刷人　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

廢娼論家肖像（其四）



前衆議院議員 服部綾雄氏

同志社大學長 原田助氏

辯護士法學士 寺田四郎氏

日本力行會長 島貫兵太夫氏

論議

矛盾せる行政處分

辯護士 法學士 寺田四郎

◎人權問題である

私は賣淫制度に就ては多少の研究も爲した事があつたが、其後閑暇がなかつた爲引續き之が研究に從事することが出來なかつた。然るに先頃救世軍士官から「人權問題に關する事件が起つたから之に就て盡力して貰ひたい」との依賴を受けたので、再び此問題に就て考ふる樣になつたのである。此事件とは品川の貸座敷三祐樓の娼妓たりし艶衣なる者が、自由廢業をなさんが爲に舊臘十二月廿八日三祐樓を脱出したるを品川警察署は其逃走の罪を以て同人を二十日の拘留なる嚴罰に處したる事件である。卽ち『娼妓取締規則』第七條第二項には『娼妓は法令の規定若くは官廳の命令に依り、又は警察官署に出頭するが爲外出する場合の外警察官署の許可を受くるに非ざれば外出することを得ず』とあるに拘はらず、艶衣は此條項を犯したりと云ふ件である。今此事件の要領を物語れば、同人は舊臘十二月の廿八日に自由廢業を爲さんとて三祐樓を脱出し身を救世軍に投じ、漸く一月十三日に脱出を品川警察署に自首し出で、同時に娼妓名簿の削除を申請した然るに同警察署は百方自由廢業を思ひ止らしめんとしたが艶衣の意思鞏固にして誘ふ可からざるを見、娼妓名簿を削除し尙卽決を以て同人を二十日間の拘留に處したのである。けれども此艶衣が娼妓をなさんとするに至りたる原因を尋ねて見ても、又廢業をなさんとするに至りたる原因を考へても眞に憐むべき感ずべき事情が伏在して居る。彼は老母と先夫の遺子を救はんが爲此の如くになつたのであり、又娼妓なる營業の醜汚なるを自覺し、且其生活の悲慘なるを實驗して、其苦に堪へずして廢業をなさんとしたのである。救世軍が之を救ふに至りたるは之が爲で、私が辯護士として之が正式裁判を仰ぐべきを勸告し、且つ其辯護を引受たのも此所以である。

◎娼妓となる動機

偖大凡婦女子が娼妓となるの原因は種々あるが、之を江戸花界沿革史によりて區別する時は、(一)病に臥したる父母を救はんとして己の身を賣り娼妓となれる者あり、(二)數代つゞいた富豪一旦瓦解して今日の生活にも困ると云ふ所より、一時一身の代金を得んとして娼妓となれる者あり、(三)非道の

父が己の慾を滿さんが爲に其子を娼妓に賣りたるによる者あり、(四)其父母が神田明神の祭禮に他人に劣らぬ綺羅を張らんとの虛榮心の犧牲となつて賣られた者あり、(五)惡漢の誘拐によりて身を賣られたる者あり、(六)他の正業に就かんとするも、六尺の男子を掌中に翻弄した昔を忘れかねて復娼妓となつた者等である。更に之を學理的に分類すれば

甲、內部的原因

(一)勞働の嫌忌　(二)性慾の刺戟

乙、外部的原因

(一)生活の困難　(二)家庭內の婦女に對する虐待

(三)朋輩の誘惑　(四)富裕者の華美の眩惑

(五)三文文學の影響　(六)惡漢の誘惑

(七)飮酒

此外にも原因數多い事であらうが、其最も大なる原因となつて居るものは生活の困難である。是は獨我國のみではない、佛國抔で矢張婦女の墮落は生活の困難が原因をなして居る。

◎娼妓の生活狀態

彼等娼妓の生活狀態は如何であるか。實に憐むべき狀態に陷るのである。島田會長は嘗て廓淸會演說壇上に於て、我國の娼妓は單に金錢を以て其身を賣買せられ一生其自由を束縛せらるゝのみならず、之に加へて淫行を强ひらるるのであるから、往古の歐米に於ける奴隷よりも一層殘酷な者であると云はれたが、寔に至言である。私は常に德川氏時代の種々の書物を讀んで見る時、當時の娼妓の生活に關する者を見るに至つては、其殘酷なる狀態に就て、淚の落つるを禁ずる事が出來ないのである。大正の今日になつても其が尙依然として憐むべき狀態になつて居ると云ふ事は實に長嘆すべきであらうと思ふ。諸君試みに遊廓に入つて彼等の現狀を見よ。其格子戶の中にあつて公衆の前に曝されて居る樣は、眞に動物園に於て猛獸奇禽を觀覽せしむるも何等擇ぶ所がない。實に憐むべき者である。

◎樓主の殘酷と警官の不法

樓主と稱する者は德川時代に於ては、山路愛山氏が廓淸誌上に云はれた如く、穢多の一種であるかも知れぬ。昔は彼等を亡八と云つた。是は彼等の心には仁、義、禮、智、孝、悌、忠、信の人道上尤も重要なる八德を亡ふて居る故に斯く名付けたのである。又別に『くつわ』とも云ふ。娼妓を馬の如くに虐待する所より馬の轡の如しとて斯く名付けたのであるかと思ふ、彼等の斯かる醜業を營み、豪奢を盡して居るに拘はらず、尙娼妓をば虐待し、日常の食物をも充分に與へず、病に罹りても尙客に對せしめる等、鳥獸を待遇するよりも尙一層の殘酷を極めて居る。そして若も廢業をなさんとする者あるときは百方之を喰止めんとして、種々の惡辣手段を盡すのである。其性行、其心事實に惡むべきである。然るに警察官が之に對する態度は如何であらうか。此の惡むべき樓主に荷擔して、憐むべき娼妓に酷薄であるとは、實に驚かざるを得

ないのである。明治五年十月二日太政官布告第二百九十五號には次の如き條文がある。

一、人身を賣買致し終身又は年期を限り其主人の存意に任せ、虐使致し候は人倫に背き有るまじき事に付、古來制禁の處從來年期奉公等種々の名目を以て奉公住爲致其實賣買同樣の所業に至り以ての外の事に付自今可爲嚴禁事

其後の方に至つて斯う云ふ事もある。

一、娼妓、藝妓等年期奉公人一切解放可致、右に付ての貸借訴訟總て不取上候事

又同年民部布告第二十二號の布告に

一、同上娼妓藝妓は人身の權利を失ふ者にて牛馬に異ならず。人より牛馬に物の返辨を求むるの理なし。故に從來同上の娼妓藝妓へ貸す所の金銀並に賣掛滯金等一切債るべからざる事

とある。是が所謂娼妓解放條例なるものである、之に由つて皆娼妓の從來の例を破壞したのである。其後明治九年二月廿四日警視廳達第四十七號に『娼妓が廢業せんと欲する者は、其事由を妨ぐることを得ず、常に娼妃をして正業に就かしむる様注意し云々』とあり、又明治廿年五月二十三日警視廳令第十號を見るに之には『妓主は娼妓を遇するに誠實を以て力めて正業に復せしむること』と書いてある。次で明治三十二年民法發布以來自由廢業の問題喧しくなり、救世軍は同卅三年以來之を奬勵して、此の可憐なる婦人を救ひ出さんと奮闘努力し、遂に明治三十三年十月五日内務省令第四十四號娼妓取締規則ともなつたのである。又明治三十九年七月九日警視廳達第四十號にも『力めて正業に復せしむる樣注意せよ』とある。明文は昭々乎として存するに係はらず、警察官署は常に樓主にのみ同情して娼妓の廢業を阻止せんとしつゝあるのは法令を掌る警察官としては看過すべからざる事と思ふ。

◎行政處分の大矛盾

法令に於ては務めて正業に復せしむべしと規定して置きながら、一方に於ては警察官なる者が、廢業して正業に復せんとせる者を防止するとは實に矛盾せる行政の處分ではなからうか。況んや『娼妓取締規則』に

第五條　娼妓名簿削除の申請は書面又は口頭を以てすべし
前項の申請は自ら警察署に出頭して之を爲すに非ざれば受理せざるものとす。但し申請書を郵送し又は他人に託して之を差出す場合に於て警察官署が申請者自ら出頭すること能はざる事由ありと認むるときは此の限りに非ず
警察署に於て娼妓名簿削除申請を受理したるときは直に名簿を削除するものとす

とあり、又

第六條　娼妓名簿削除申請に關しては何人と雖も妨害を爲すことを得ず

第十三條　左の條項に該當する者は三月以下の懲役又は百圓以下の罰金に處す
二、第六條第十二條に違背したる者

とある。別には申請を受けたる時には直ちに名簿を削除すべしとあるに係はらず、警察官は何時でも直ちに削除した事はない。又何人も妨害を爲すことを得ずとあり且之を妨害したる者は三月以下の懲役又は百圓以下の罰金に處せられる事になつて居るにも係はらず、警察官は常に廢業の妨害をして居るのである。即ち娼妓よりも警察官が常に取締規則を犯して居るのである。是が矛盾ではなからうか。

◎斷じて無罪である

翻つて艶衣の案件を考ふるに、彼は娼妓稼業を廢業せんと考へ幾度か之を決行せんとしたれども、遂に之を爲すの機會なく、樓主よりの虐待に其日を送つて居たのであるが、其母が慈恵病院に於て危篤に陷いれるを聞き、之を見舞はんとして外出を警察官に願出でたるも、警察にては樓主を呼び出して其意見を聽き、遂に之を許可せず、母は最愛の己が子に臨終の際に一目相逢はんと切に望みたりしも、其甲斐なくして一週日の後に死亡した。又彼艶衣の嫖客の母と妻とが昨年末に於て彼が許に來り、良人が道樂するより今や一家破滅の境に至れるを訴へられ、其悲慘なる狀況見るに忍びざるより、客に對して大に異見をも加へ、己も斯かる罪惡なる稼業に從事するは忍びずと決心し、終に廢業の目的を以て樓を脱出したる者である。然し直ちに警察に行くも又必ず樓主に引渡され到底目的を達する能はざるを思ふて、誰に依らんか、何人に賴まんかと苦心し遂に身を救世軍に投じ一月十三日救世軍士官と共に品川署へ自首し出づると共に、廢業の申請をなしたのである。されば艶衣が脱出したのは全く廢業の目的であり、又法令の命ずるが如く、自身警察官署に出頭廢業申請を爲さんが爲であつて、他に惡意のあつた譯ではない。此點から考へて私は艶衣の脱出事件は無罪である。法律は成るべく娼妓を罷め正業に就しめんとして居る。其精神に從つて廢業する人あらば警察官は之を賞してまでも廢業せしめ正業に就かしむべきであるに、却つて之を二十日間の拘留に處するは何たる不法であらうか、暴戻であらうか。

◎是れ人權擁護である

私が艶衣事件に付快く其辯護を引受け、正式裁判の法廷に於て之が辯護をなしたるは全く艶衣一人の爲ではない。斯かる矛盾せる處分を受けつゝありて、尚其權利を伸ぶるに由なき幾多可憐の婦人の爲に、法令を蹂躙して顧みざる警察官を亂し、日本全國四萬餘の虐待に泣ける婦人を救はんとするのである。然るに區裁判所は警察官がなせる裁判を過重なりとなして改めて科料貳圓に處せられたのであるが、何故に之を無罪としなかつたのであらうか。私共は此判決にも服する能はずして之を控訴し、今審理中である。然るに同業者たる西村勘之助氏は私共の主張に賛成せられ、廷に於て共に辯護の勞を執らるゝ筈である。事は單に一個の娼妓の取締規則に過ぎないが、其關する所は實に重大なる者で大にしては人權の擁護であり、法令の勵行である。

近代思想と公娼制度

廓清會評議員
文學士　三輪田元道

（一）近代思想の骨髓

近代思想の太洋に棹して仔細に之を檢覈する時、吾人は二個の大なる潮流を見出すであらう、一は自由に關する思潮にして他は人格に關する思潮である。此二つは近代思想の骨髓をなすもので、之を人生々活と結び着くる時、其最も發達せる國家がやがて最も文明なる國家たるを意味する、語を換へて云へば此兩思想は現代文明の尺度である。

此時代思想が法律の上に現はれては所謂責任論となる、昔者一人の罪が九族の上に及び、大岡越前守は石地藏を縛して裁判をしたといふ、これ等は人間の意志を問はず其行爲を罰してゐた事を語るものである。日本が今日一等國の伍班に列したといふものは其强兵なるが爲ではない、其富國なるが爲ではない、富國强兵は其一因たる事は勿論であらうけれども其根底をなすものは自由と人格の伸展發達にある。此兩者に對する觀念が法律、倫理、教育、宗教の上に比較的に成育してゐる處に、一等國たる價値は存在するのである。

然るに日本には公娼制度なるものがある。五萬の生靈を拉し來つて之を遊廓と稱する檻倉に繫ぎ、豺狼の爪牙に委して其骨肉を食ましめ、其膏血を啜らしめてゐるのである。斯の如き戰慄す可き事實を眼前に展開せしめて、親が子に道義を敎へ國家が國民に倫理を說くとも何の効があらうや、自家撞着も茲に至つて極まり、一等國の面目も茲に至つて汚損し盡されるのである。

近來新聞は憲政擁護で其一二面を埋め、空前の盛況を呈してゐるが、泰山鳴動して果して鼠一匹飛び出すか怎うかそれすら疑しい。道德にすら公娼制度のやうな除外を設けて憚らない位であるから、政治界に官僚が跋扈し閥族が跳梁するといふ憲法治下の除外例があるのは無理ならぬ事である。宗敎の上にも敎育の上にも除外例を設くるから發達しない、碧洋々たる大空にも一沫の黑雲があると、之によつて眞如の月は蔽はるゝ、我々はどうしても這麼除外例を抹殺しなければならぬ。妖雲を拂つて光風霽月を仰がねばならぬ。

（二）眞に人間と瓦礫の區別を知れり乎

私は平生世界の偉人の歴史を讀む事が好きである。殊に亞米利加の大統領リンコルンの傳記は私に無量の感興を與へる。リンコルンは卑賤より身を起して世界の一大偉人となつたのであるが、彼をして最も光輝あらしめるものは奴隷の解放である、エマンシペーションの態度は一介の人間をして世界の偉人となしたのである。勲爵位階を有つてゐる人でも其爲す處は多く小人の行で、高位高官にあるからといつて偉人ではない、小人であるかも知れぬ、而して其小人が我國にありては國民の生命を司つてゐるやうである、何となれば彼等は人道上一日も忍ぶ可らざる公娼制度を布いて怪しまぬではないか、彼等はリンコルンの史を讀みて正に慚死すべしである。

今日の新聞を見ると洲崎の一娼妓が、客から一圓五十錢の立替を要求され、それを拒絶した爲め熟睡中客に縊め殺された、幸に手當が早かつたゝめ蘇生はしたものゝ、苟も人格を具へた人間を縊殺したといふ事實が報道されてゐる、然るに之に對して東京市民は對岸の火災程にも感じない、之れ實に倫理道德の萎靡せる證左ではないか。

リンコルン時代一八六三年の亞米利加は實に成上りの亞米利加であつた、世界の無頼漢の集りであつたにも拘らず人道の光が燃えた。何千年の歴史を有する日本人が、一圓五十錢の金を要求せられ之を拒絶すると縊殺されるやうな危險な地に同胞を置いて顧みないといふのは何たる事であらう、風前の燈の様な危い運命の手に身を委ね、世にも浅ましい生業をしなければならぬ彼女達は眞に呪はれたる女ではないか、彼等は人間にして人間にあらざる境遇にあるのである、其人格は蹂躙せられ其自由は剝奪せられてゐればこそ、斯うした危險も刻々迫つてゐるのである、國家は彼等を人格なきものとして走狗同様の取扱をなしてゐる一方に、刑法に於ては檢事が國家の代表者として加害者に刑を要求するのである、之をしも矛盾といはずして又何をか矛盾といはんや、此場合娼妓の人格を認めなければ刑法上の責任は成立しない、即ち意志の自由ある人格を有するものたるを要するのである、然るに事實は娼妓の人格は認められず、自由は束縛せられ、加害者は罰せられる、斯かる矛盾が存在する間は日本の倫理に光を與へる事は出來ぬ、吾人は一日も早く此泥沌暗澹たる人道の上に光明を投げねばならぬ、そして人類の幸福を庶幾せねばならぬ、今日の社會はまだ充分人間と瓦礫との區別を知らない、切言すれば人格に關する思想がまだ發達してゐないのだ、否知つて顧ないのである、德川時代のやうに知らないのならば未だ恕す可し、知つて顧みざるに至つては憎みても猶餘りあるのである。

（三）犧牲は人道の敵也

論者は動もすると傲然として公娼は手段に用ふるのだといふ。切言すれば犧牲にして多數者の利益を圖るのだといふ。第一は風敎上公娼といふ制度があると私娼が殖らぬ、情慾を滿足すると風敎がよくなる。第二は衛生上公娼といふ一

階級を設けて堤防を築き、之によりて病毒の侵入を喰ひ止める事が出來る。以上二つの大切なる理由の下に此制度の必要があるのだといふ。私は衛生上の事は暫く措き假りに一歩讓つて論じても、人を犧牲とする事は、斷じて人道上許容す可らざるものたる事を叫びたいのである。

私は四國に生れた、私の田舍に『萬野の池』といふのがある、此池は昔いくら嚴重に築いても／＼堤防が切れて、近村の人達が常に難儀をして居つた。然るに人間を人柱にすると堤が切れなくなるといふ口碑が傳へられてゐる、そこで誰か人柱になる者はないかと探して見た、人柱といふのは生きた人間を堤防の眞ん中に埋めるのであつて、さうすると靈魂の力で堤が切れなくなるといふのである。併し誰しも命は惜しいから一人として自分がならうといふ者がなくて困つて居つた。或日の事そこへお萬といふ女が田か畑か耕しての歸るさ何心なく通りかゝると、突然引捕へて泣き喚くのを無慘にも生き乍ら土埋にして所謂人柱なるものを作つて了つたといふ事である。それから池の名も萬野の池と呼ぶのであらう『お萬可哀や萬野の池で、泣くや堤の人柱……』といふ歌が未だに殘つてゐる。私は此歌を聞く度に言ひ知れぬ悽愴の感に打たれざるを得ないが、此歌によつて蒙昧な時代にありてすら犧牲の殘忍に戰き、哀れなる萬野に對する同情が切々として讃まれるのである。梅毒を防ぐ方便として公娼といふものを設け、風教といふものゝ爲に廓に押し籠めるといふのは、これ萬野の人柱ではあるまいか。これ今日の時代に思想上斷じて許す可らざる所のものではあるまいか。犧牲といふ文字は牛扁である、昔は牛を祭つたから斯ういふ文字が出來たのであるが、今は人間を祭つて怪しまないといふのは卽ち神經が麻痺してゐるからで、我等は之に鞭撻の必要を見るのである。

或者は又斯ういふ事をいふ、犧牲がいけない等といふのは常識を顧みない愚論である、徵兵も犧牲ではないかと、されどもこは大なる誤謬である、徵兵は國民の義務否權利である斯かる似て非なるものを以て論ずる者に對しては答辯の限りではない、文明の今日に於ては一人でも半人でも方便として犧牲とする事は許さない、一人の生命の爲には國家を賭しても爭はなければならぬ。

（四）　公娼ありとも私娼は增加す

公娼を廢したら私娼が殖えるだらうといふ者がある。私娼が殖えたら之に對する手段は自らあるのである、顏に腫物が出來る、一つ治すと又一つ出る、併し出るからと云つて放擲つて置かなければいゝ、又出たら又治す迄の事である、そこが人生の興味ある所である。現に公娼があつても私娼が殖えつゝあるではないか。山王樣のお祭りに私は子供を伴れて赤坂を通つた事がある、そこには夥しく待合と稱するものがあつた。子供は小學の四年であつたが、待合つて何をする處かと聞く、人を待合せる處だと敎へると子供は、待合は澤山あるけれどもお客はないやうぢやないかといふ。夜が來ると男と女とが澤山やつて來るといふ譯にも行かず困た事があつた。

十二階下も新橋も減る事はおいて殖えてゐる、公娼を置くと私娼が無くなるといふのは詭辯的である、公娼と私娼との關係は、公娼は幼稚園か小學校で、茲を卒業すると私娼を買ふ樣になるのである、公娼は卽ち豫備校で、放蕩學校入學豫備門である、換言すれば道樂手ほどきである。此意味を推して行くと公娼があるから私娼がなくなるといふ議論すら出來るのである。又公娼があつても私娼が殖えるならば公娼の存置の意義は半失はれたものといはねばならぬ。

私は鎌倉の海岸に母がゐるからちよい〳〵遊びに行くが、生きた魚が五錢で買へる。生きた魚でも自分の所有とするのは中々愉快である、若し生きた人間が五十錢か一圓で買へたら成程それは愉快であるかも知れぬ。乍併孔子も德禽獸に及ぶといふ事は云はれてゐる、況んや生きた人間をお金で買ふといふ事は人道の上に忍び得ざる事ではないか。鳥にしても魚にしても出刄庖丁を以て殺す人は比較的殘忍な性質のものであらうと思ふ。而も帝都で人間を縊殺して怪しまぬといふのは、如何に娼妓といふものが動物視せられてゐるかを證するもので人道のふゑはざる亦甚しい哉である。

《五》 現實主義の現代

殊に現今の國民生活は現實主義である。打算主義である。公娼があれば何人が利益を得ると打算をする、其當座さへよければいゝと云つたやうな有樣である、現實主義が政治に現はれたのが妥協政治である、非立憲政治である、自己の政見を主張するといふ事はない、其當時の風向きに從つて權力を掌握すれば卽ち足る、將來は怎うでもいゝ後は野となれ山となれとなるのである。宗敎の上にも現實主義は燎原の勢を以て燒き盡さうとしてゐる。某寺では觀音の本尊(彫像)が無くなつたと云ふ。某寺の住職といふのは齒既に六旬を超えてゐる、そこで和尙考へたのには、人生五十といふ年は疾くに通り越した、古來稀なる七十に垂んとする身となつては、どうせ幾何もなき老先である、一層の事太く短く暮すに如くはないと飛んだ發心をして、寺の財産を賣つて面白可笑しく餘生を送らうといふ現實的人生觀から、何某といふ富豪の床の置物として了つたといふ。そして彼は全く放慢的生活に這入つた、公娼も買つた、私娼も買つた、勿論酒に陶然の快を貪りた、勝手放埒に振舞つた。寺の信者が可哀想である、本體が賣られて空つ虛の處に、どうぞ極樂往生が出來ますやうと一生懸命祈念してゐる、既に信者迄が賣られてゐるのである。

私は公娼制度は、風敎の上からも衞生の上からも異論はあるが、之等は暫く措き、唯人道の上から見て許す可らざるものとして、國家が之を公認するが如き野蠻なる態度を改めん事を望んで止まざるものである。我々東洋人の頭を永い間支配してゐたのはいふ迄もなく孔孟の主義である、孔子は表向きは云はなかつたが、仁といふ事を說いてゐる、仁とは卽ち人道の義である。公娼が仁に悖るのはいふ迄もない、孔子は『廐燒けたり、子朝より退りて曰く、人を傷れりや、馬を問はず、』とある。誰しも廐が燒けたといへば馬は怪我しなかつた

かと聞くのは當り前である、道に孔子は先づ怪我した人はなかつたかと問ふた、此孔子の襟懐に私は感心したのであるそれだから何千年後の今日お互に尊崇するのである。さる處に現實的の人があつた、書生が主人の大切にしてゐる花瓶を壞したといふので放逐された。書生は學校に行く時間が迫つてゐたので、つひ心が急いてはたきで叩いて壞したのである多少輕卒として責むるのもよからうけれども、罪に對する責任の歸する惡意といふものがない。法律でも道德でも意志のないものを罰するのは不當である、學校に早く行きたくて叩き壞したのは過失である。つまり主人は書生よりも花瓶が大切であつたのである。之は物質的の現代の側面を暴露したものであると思ふ、地下の夫子は定めて澆季の世と嗟歎してゐる事であらう、嗚呼斯くの如くにして理想の光は公娼の幕の裏に黑くなつてゐるのである。

（六） 人道の背景に起て

遮莫、現代を打破して如何なる世界を描く可きか、人道の光を描くのである。政治にしても人道の光を背景にして立たなければ駄目である、外交の如き殊に然りで、如何に國富み兵强くとも世界の信用を失墜しては滅亡の外はない、二師團も必要、軍艦も必要には相違ないが、百萬の貔貅あり千百の艨艟あるとも人道なくして其勢力を持續する事は出來ないナポレオンは不可能といふ文字を辭典より除けと豪語した乍併彼の末路はインポッシブルでなかつたか、セントヘレナの彼は果して怎うであつたか、人間萬事不如意といふ事を說明したではなかつたか、彼は世界の同情を失した、國民の同情が去つた彼は匹夫と最早擇ぶ所はなかつたのである。蓋世の英雄も同情なくしては風雲を叱咤する事は出來ない、我々はどうしても人道を背景として立たなければならぬ。

マキヤベリーといふ人は近代の學問政治の上に新しい時代を開いた人である。彼は、政治は別物で、道德などゝいふものは政治上に迂遠のものである、と云つてゐる。成程政治には黨略とか政策とか駈引とかいふものがあらう、併し權謀術數といふものは永遠の勝利を得る所以の道ではない。妥協とか肝膽相照とか情意投合とかいふやうな非立憲な政治が行はれたのは、マキヤベリズムの餘弊であるといはねばならぬ。我等は是非共起つて打算的勢力を打破し、人道の光を建設し、公娼制度廢滅の爲に鬪はなければならぬ。

（七） 公娼を廢して人格と自由とを擁護せよ

尤も我輩などは諸君から見ると迂遠であるかも知れぬ。娼妓を買つた事もなくて其眞相を捕捉し正鵠を射た論議をやる事は不可能であるといふかも知れぬ。併し娼妓は買はなくとも研究する事は出來る、或友人が「君は廢娼々々といふが吉原を知つてゐるか、公娼は舊式で放擲て置いても自滅する運命を有つてゐるよ、十年かゝるか二十年かゝるかそれは分らぬが兎も角早晩倒れるに定つてゐる。何故かといふと現代に適應しないのだ。今日の世の中は非常に忙しい眼の廻るやう

な時代である、活動寫眞が今日の盛況を呈してゐるのはよく這個の消息を語つてゐると思ふ、電光石火的の忙しい世の中にはどうしても活動寫眞のやうな、咄嗟の間に快樂を充すものが流行るのは極めて明白な理である。然るに翻つて吉原を見給へ、徳川時代の遊惰な、悠長な俤を其儘傳へて、中居が出る鴇手が出る、却々一日仕事である、そこへ行くと淺草は電光石火的時代に餘程適合する、淺草へ行けば直に目的が達せられるやうになつてゐる。』と、私は成程さういふものであらうと此議論に感服した、感服はしたが公娼制度廢止の議論とは太した關係はない、公娼の運命が盡きてゐるからと云つて、ぼんやり手を拱いて自滅の期を待つ事は出來ぬ、世の中が開ければ憲政は發達するといふてぼんやりしては居られぬ。憲政擁護運動も必要である、憲政促進團も結構である、況んや社會を蠹毒し家庭を紊亂し、人道を沒了する公娼制度の如きに至つては、一日も忍ぶ可らざるものであつて、一日早く廢すれば一日だけ幸福を增進する所以である。吾人は諸君が愼重に審議研究して對岸の火災なりとする考察より醒めて、己れの眉を燒く緊急問題なる事に想到せられむ事を熱望するのである。

尤も形式の上から見る時は奴隷制度といふものは無くなつてゐる。貸座敷といふ名になつて、樓主は座敷を貸し、娼妓は座敷を借りて出稼をするやうになつてはゐるが、其實は元より依然たる人身賣買である。彼等の何處に自由ありや、何處に人格を認むる事を得るや、詮ずる所公娼制度は人肉の切賣業公認制度である以上、區々たる名稱の改廢の如き幾度之をなすも何の益かあらん、問題は根底より覆滅せしむるより外はあらず、妄りに手をつかねて病毒の蔓延せむ事を憂ひ、空しく頭を垂れて私娼の增殖せん事を虞れ、徒に己れの影に怖ぢて逃ぐるを知らざるが如きは寔に痴人のことである。吾人は繰返して叫ぶ。近代思想の二大骨髓たる人格と自由とを擁護せよ、而して之を沒了する公娼制度を打破せよと。

會告

純潔の歌
廢娼の歌

制限　七五調、四句一聯、四聯以上十聯以下
期日　三月廿五日、發表は四月號の本誌上に於て
賞品　各一等本誌五ヶ年二等三ヶ年三等一ヶ年間寄贈

右募集す、社會人道の爲、奮つて投稿せられたし

第五回研究會（來會自由）

二月二十四日（月）午後六時、本部に於て開催、講演者及研究題目は未定なるも、多分ドクトル富士川游氏、性欲問題に就きて其蘊蓄を披瀝せらる可し

大阪支部研究會（來會自由）

二月廿六日（水）大阪支部に於て研究會開催、京都帝國大學醫科大學敎授醫學博士松浦有志太郎氏出演の答

東京府下藝娼妓及貸座敷賦金を以て道路營繕等の費に充てるを止め之を積金と爲し一大授産局を開き兩妓に陥るべき窮女を救ふの議

記者曰、こは田邊實明翁が明治八年に時の東京府知事大久保一翁氏に宛てゝ建白せられたる建議案である。翁は今の齋藤海相や後藤遞相を引立てゝやつた人ださうであるが兎に角、殆んど三十七年の昔、藝娼妓に對してこれだけの纏つた意見を持つてゐた役人もあるのに、大正の世と代り憲政擁護の聲天に轟かんとする今日、尙其憲法上に與へられたる人權を泥の如く蹂躪せられてゐる彼等の爲に、首を傾けて呉れる爲政者のないのは遺憾の至りといふよりも、寧ろ慚愧に堪へない次第である。（本文は片假名にて書かれたるものなれども、茲には便宜平假名に改めた。）

明治五年十月藝娼妓年季解放の令あり爾來賣淫府内に蔓延す之を制御の道無ければ風俗を破り倫理を猥すの恐あるを以て府議兩妓及び貸座敷の規則を建て同六年十二月より之れを施行せり、生七年一月以來此事務を擔倍し願書の出る每とに之を閲して其縁る所を知り又表を製して其人員を計るに連月平均して増加する所の兩妓九十餘員に及ぶ則七年十二月算する所の兩妓三千二百五十九名にして六年十二月に比せば增員千百十一名に至る而して別に近接の縣下へ出稼する子女同七月以來十二月に及ぶ迄六百九十九人故に現今當今當府民籍より出る兩妓を合計して三千九百五十八名とす然れども之れ僅に官府の公知する所の者なるのみ此の他密に淫を各區に賣る者の數は甚だ多し以て淫佚の風の府中に流行するを徵すべし

夫れ娼妓なる者は大體原籍を失し他の厄介附籍の窮民にして此の業を爲すや懶惰の兄伯に迫られ或は奸猾の無頼に誑されて此苦域に陥る者あり糺彈實を得ば恐らくは賺買に近き所爲なしと云難し府廳遂きに規則を設け告諭を下し又戸長をして注意せしめ勉めて此の弊害を除き彼の束縛を解くと雖も素より暗弱の窮少婦何んぞ自己の權利を維持して能く奸猾輩に相對する事の出づべきや藝妓は娼妓に比すれば少しく勞逸の違ひあるが如し殊とに近時の一弊にて苟くも艶美の貌姿あれば故意に藝妓と成りて富貴の門に償はれ輕俊の手に養はるゝの萬一を僥倖し此出身の期を佇望すと雖ども是れ豈に悉く自己の眞意に出づるものならんや故に其の源を省れば娼妓と伯仲たるの三官府既に此窮民なる藝娼妓の束縛を解きて人間の權利を得せしむるに着手する以上は今一歩を勇進し此窮民をして藝娼妓の醜業に陥らしめざるの方法を設けざる可からず議者必ず云はん娼妓を禁せば世上姦通の弊害を盛ならしむ可しと又云はん何を以て此の千百の窮女惰婦に正業を授くるを得んやと或は又云はん藝妓の如き素より絃歌舞謠を業として人の快樂を助くる者なり文明諸國の女舞即はち甚だ相似たり政府別に制御の道を設けて其職業の自由を妨ぐ可らず又娼妓の如きは淫奔自ら好みて之に陥る者なり其眞意に出るものは許して自由に任ずべし到底斷ずべきものに非ずと微生之に答へて曰はん然らず西洋開化の國と雖ども悉く良改にして未だ遺す

所無きに非ず賣淫默許の如きは從來の惡習今日に傳流して止むを得ざるに出るものなり彼の淫奔自ら好みて陷る者と概論するに至りては偏見なりと云はざるを得ず夫れ榮を尊び辱を卑しみ樂を冀ふて苦を忌むは人情の常なり豈に娼妓に限りて此常情に背き榮と樂とを棄て辱と苦とを戀ふ理あらんや懐ふに放蕩遊惰の末貧困に迫り終に此醜業を爲す者なり若し強て之を好みて爲す者とし之を救ふを要せずと云はんか然らば則ち何故男子の徒食遊蕩にして貧困に陷る者を貧院に入れて養ふか何ぞ窮女と同一に看做し好で苦域に陷る者なりとして之を不問に置かざるか況や疾病災害の餘無告の窮民と成り其生涯を保護する能はざる者に於てをや夫れ兩妓の世道を害し風俗を傷くや昭々子として明かなり之を戒め之を教へ之を止めざる可からずと雖ども今日兩妓を許す者は止むを得ざるの權道に出るなく而して人民の此業をなすも亦止むを得ざるの窮途に出るなり何にをか止むを得ずと云開化未だ洽ねからず財本未だ足らず故に今日に在ては止むを得ざれど後來之を廢するの期無きに非ず請ふ之を陳せん、譬へば茲に一女子あり幼にして父母を失ひ兄伯の養ふ所となる兄伯家貧しく百方苦業すと雖ども養育するの道無し依て女をして自己生計の途を覓めしむ女素より他による所なく止むを得ずして又兄伯の指揮に託し則ち陽に眞意出願と云て醜業を把るに至る一とたび此に陷る者如何にして人道を全ふするを得んや初め出願の前戸長事情を調査するの際若し兼て授産局の如き設けありて之に就かんことを諭さば必ず悅で之に入るべし或は又親族に養育せられ親族甚だ貧ならずと雖ども其性殘忍一己の貪慾を恣にせん爲め甘言以て之を欺き恩を飾り威を弄して女に迫るに至るより女は甚だ娼業を厭苦すと雖も又如何ともする無く恨みを呑みながら眞意の虛名を以て出願す戸長已に其事を察し不良を諭すと雖ども親族は養育の力なく又他に生活を求むるの道無きを主張せば如何ともしがたし若し此時に授産局あり之に入れば親族も貪慾の奸を計る能はず女も亦悲憂を呑んで苦域に沈まざるべし此他人身賣買の禁出でてより貸座敷或は世話人と稱する者あり若し某の子女にて出稼ぎと唱ふときは己れと不便なるを以て養女とし附籍と號し巧みに我戸籍に入れんとす其質は束縛を爲すこと年季抱に倍するの弊あり元來妓たる者の父兄は懶惰暗弱素より廉耻の意なし偶々骨肉の情愛あるも如何ぞ彼の貸座敷或は口入を業となして滑才に長ずる輩に相對するを得んや此輩の非質を探り知る容易なりとせず假令之が爲に專務の一局を設け一々推問糺彈して其質を得るも到底貧困生活の策無きに出るにより尋常の敎戒尋常の罰を加へて之を止め得べき者に非ず之を止めんとせば一大授産を建て兩妓を營むに至る窮女を救ふの外に良策なかるべし然りと雖ども此授産場たるや巨萬の金を積むに非れば行ひ難し而して微生其策ありしかも別に政府を煩すに非ず別に人民に募るに非ず一昨六年十一月新たに規則を建て兩妓及貸座敷より上納せしむる賦金月々增減あり確定しがたしと雖ども概略一ヶ年拾萬圓より下ること無かるべし（昨七年賦金拾壹萬二千五百十五圓あり）而して是迄悉皆會議所へ下付して道路修繕愛宕下病院上野養育院の入費とせり微生竊かに以爲く兩妓等の賦金を以て道路以下に用ゆる永久の成規とすべきに非ず蓋し新法着手の

際實地の景況に於て假りに之を供用したるに過ぎず夫れ道路は正税或は區入費を以て修繕すべく病貧院の如きは有志の富豪より寄附すべき所の義務に係る而るに反て之を貧民へ課して官道を營し病院を設け貧院を建るの實を成せり官府の意豈に素より斯の如くならんや思ふに兩妓及貸座敷は正業に非ず而して一旦に禁止し難きを以て此重税（貸座敷一月五圓○妓一人三圓娼妓一人二圓毎月上納）を下して懲戒し終に良民たらしめんとの仁政に出たりと雖ども兩妓の醜業は大體無告の窮に出で奸惡の意より發するに非ず已に徴税あり未だ之を救ひ之れに教るの道を立てざれば遺憾の至りと云ふべし故に兩妓貸座敷の賦金は自今以後黴毒院費に充るの外悉皆銀行へ預け大凡十年後の目的と爲し則百萬の金額を積むを待ちて一大授産場を開き始て兩妓を禁じ之を願ふ如き窮女をして正業に就かしめ亦た場中に學校を置き惰婦をして敎戒良心を培養し智識を開かしめ工藝を授けん其施立方法に至りては他日之れを論ぜんとす議者又云ん下民の情常に廉恥の意少なし假令授産場を開くとも其力業の勞に食むを好まざるべし曰く然らず目今にありて之を行はゝ或は其廢無きに非ざれど前文に述る如く財本十年後を待つにあれば此間人智開進し今日の姿に非るを知るべし夫れ開化洽からざれば淫風盛んに一夫數婦を娶るの不倫あり世之を恠まざるのみならず或は之に傚るの陋習あれども一々民法を編成し婚姻の法を定めば爭でか一夫にして數婦を娶るを得んや惟るに我政府は文明國の體裁を斟酌し已に衣服の制に及ぶ獨り數妻を置くの弊止まば彼の一婦は柳橋の藝妓より聘し一婦を吉原の娼妓より迎ふる實あらんや已に睥睨の實なし之れを待つ者なきも亦必せり之れ妓の衰ふべき原因にして正業に導き難しと爲さゝるの一なり又音曲歌舞の技は則ち藝妓の本職と雖も今日の如きは卑俚猥褻只淫蕩の媒ちなるのみ風俗を害すの甚しきもの斷然改正せずんばある可からず政府此に見ありてか一昨六年布告の學制に唱歌奏樂の目あり他日幸に此學制を實行するに至らば藝妓を制して正業に導き難しと爲さゝるの二なり我國從來人力を專らとす故に柔弱の婦人偶々力業を把る者あれども利益少なきより兩妓の醜業を營むもの亦た無きに非ず而して今や百の器械あり窮女をして正業に導き難しと爲さざるの三なり府下の習俗女あれば先づ歌舞を學ばしめ修身學に至ては却て度外に置くが如し故に動もすれば妓となり妾となりて之を耻ちず其親も亦之れを賣りて甘樂せんと欲し近時男を生むを悦ばざるの勢ひに至れども學校の設も又盛なれば年ならずして此弊風を一洗せん故に正業に就かしむる今日の如く難きに非るを知るべき四なり此四者は今日未だ行はれざる所と雖ども政府の鋭意治を圖るの際に臨み此に注意せば風俗の衰頽を挽回するに於て誰れか復疑を其間に容れんや財本は前段已に略陳せり風俗改まり財本立たば豈に他に止むを得ざるの障碍あらんや能く如此にして政府は人民の權利と風俗を保護せしと云べく而して兩妓解放の規則を設は賦金を課せしの功も始て其用を爲す微生今日兩妓たる者の情實を目撃し忍ざる所あり依て叩に卑見を吐露する如此請ふ照鑒を賜へ。

明治八年二月

庶務本課

十三等出仕　田邊實明

東京府知事　大久保一翁殿

外國に於て嘗めた苦い經驗

安井哲子

埴生の宿も吾宿で、家を離るれば吾家を忍び、國を出づれば吾國を慕ふのは人情であります。故に外國に於て受けた國民としての恥辱は實に堪へられぬ苦痛であります。私は不幸にしてかゝる苦い經驗を外國に於て受けましたから、其一二をお話して廣く其苦痛を吾同胞姉妹に分ちたいと思ひます。

一　獨逸船長の輕蔑

私は日露戰役の將に初まらんとする頃に吾國を去つてシャムに行くことゝなりました。乗り馴れた英國船と思ひましたが、時節柄出帆する船のないので、止を得ず乗り馴れぬ獨逸船に乗りました。船は横濱を發して無事に長崎に着いた一日、上陸する者が多くあつたので、殘りのお客は皆船長の食卓で食事をしました。例の如く種々の雜談中或外國人の船客が、「日本の婦人は西洋の婦人のやうに外國に旅行する者が少いでせう」といひますと、船長は「其れは其筈です、警察の取締が嚴しいから」といつて外國行の如何はしい吾國婦人の話になりかけました。

私は獨逸に參つた事がありませんから、其風俗や習慣を存じませんが、私の狹い經驗では、婦人の前で侮辱的の言葉を愼しむのは紳士の作法のやうに承知して居りました。而も此場合は船長として、船客たる吾々婦人の前に於て、殊には吾國の國境內なる長崎で、其婦人の恥辱と感ずるやうな事を他の船客の前でいふのは、實に無禮の甚しい者であると感じました。私は勿論不快に堪へませんでしたので「日本婦人が歐米の婦人に比して外國旅行をする者の少ないのは事實であるが、旅行するといふ事は決して面倒ではない、現に吾々の如きは容易く其許可を得たのであつて、友人の中にも外國に旅行した人は少くはない」と申しましたので、船長も其まゝ其話を中止しました。吾々が若歐米の婦人であつたならば、恐くばかゝる種類の話を其前でしなかつたでありませう。之れといふのも、日本婦人が實際彼等に輕蔑せらるゝやうな生活を、內外國に於てなして居るから致し方のないのであると、無量の感慨に充たされたのであります。

二　三等室の日本婦人

日本婦人にも有るまじき、さしで口をきいて僅に恥辱をくひとめたのはよかつたが、何ぞ圖らん其船中には自分の連以外に他の婦人あらんとは、彼等は帶もしめず、時々甲板の上に現はれて、一種不快の感を吾々に抱かせ、輕蔑の眼を外國人から向けられて居ました。何んで何處に行くのであるか、好き機會でもあれば問うてみやうと思つて居ましたが、保護者として恐ろしい眼付の男子が附添ひ居るので、香港まで終

に其機會を得ませんでしたが、彼等は此處に下船して、日本服に下駄といふ有樣で上陸致しました。かゝる人々との聯想上此處に來てから俄に日本の服が侮辱の服のやうに思はれて、醜さも忘れて故さらに着馴れぬ洋服を着て上陸するといふなさけない境遇は、今も尙忘るゝ事は出來ません。

三　シンガポールに於ける經驗

香港は此有樣、シンガポールは日本服着たる此種の婦人の一層甚しい跋扈、之れでは日本婦人としての價値が何處にあらうかと悲痛の情に堪へられず、生れて初めて何故かゝる淺ましい婦人と同一の日本婦人に生れて來たらうかといふ、肩身の狹い感がしました。此感情はやがて憤慨となつた、我國辱を除かんために寧公職を棄てゝ是等の人々の救濟事業に從事しようかとまで思はせましたが、其當時はそんな勝手な行動の出來る境遇でありませんでしたので、其まゝバンコックに向つて出發致しました。

四　バンコックに於ける三年間の苦痛

バンコックはシンガポールのやうな港でないために、かゝる不快な人々は餘り多く入り込まぬとはいふものゝ、絕無ではありませんでした。殊に其土地自身の風俗が一般に純潔といへぬので、かゝる人々も實際此社會からは、其程輕蔑を受けなかつたかも知れません。併我々の仕事と位置とからいつて、此位苦しい事はありませんでした。曾て英國滯在中、或東洋人が慷慨して「西洋人は東洋に多くの强い酒などを販賣して人民を害する一方に、酒などを飮むなと傳道するが、何たる勝手な仕方であらう」と言つたのを聞いて、深く心に印象して居りますが、吾々當時の位置も全く其通りで、社會の風俗が餘り淸潔でない處に育つた年若い女子に、何とかして出來るだけ貞操な心情を養ひたいと努むる一方に、自分と同國人なる日本の女子が、遙々とかゝる遠國まで來て、仕事もあらうに、自貞操を賣つて恥とせざるに至つては、殆吾々の敎育の力は零となつてしまふので、此國の女子を敎育する前に、先是等同胞の敎育を爲すのが順序であります。併かゝる不幸なる女子も、其多數は他人の誘惑によぎなくせられて居るので、かゝる婦人を救濟するには、之れと同時に其誘惑者を救濟せねばならぬことゝなりますので、此處に至つては遺憾ながら、吾々女子の力のみでは出來ぬのであります。

バンコック行は私の一生に言ふべからざる種々の敎訓を與へましたが、殊に出立の初から其國を去るの終りまで受けた深い心の傷は卽此吾國女子の不節操問題であります。かゝる種類の研究と救濟方法とは個人の力では實に如何ともする事の出來ぬ者でありますが、幸にして廓淸會の設立があつて此不潔なる風俗を改善しようと力めらるゝのは、實に國家のために喜ぶべき事であるのみならず、女子としての立場からは一層深く感謝せねばならぬ事であります。

寄書

栃木縣人と娼妓

KY生

栃木縣下には各郡市に一つ若くは二ヶ所づゝの遊廓——貸座敷なる怪物がある。而して多くは十年前、本縣知事たりし彼の教科書事件に關與して有名なる收賄知事溝部某の時代に奬勵的に許可されたものである。無足屋——曖昧料理店、魔窟の繁昌に壓倒されて今日にては、一戸若しくは四戸位に減じ僅に數名の娼妓を店頭に晒し、田吾作連に調法がられ居るものあれど、今なほ熾に娼賣しつゝあるは、宇都宮の十五戸娼妓百三十餘名(常に娼妓の數は五人と增減なし)を始めとして河內郡の德次郎、下都賀郡の合戰場、安蘇郡の堀米、足利郡の福井、那須郡の黑田原、大田原、芳賀郡の久下田、眞岡などにして、其の他の郡にも一二ヶ所づゝ現存せざるはない

されども二十年前に比すれば一般に頽れ味に入つて居る、雀、石橋等の如く自滅せし個所すらある。是等遊廓、娼妓に對する縣人の態度は如何、彼等は遊廓は無くてならない所、社會の別天地、人生の慰安場、社交倶樂部の如く心得て居る從つて彼等は白晝登樓するもとがめない。同じ家に主人も行く、店員も行く、父子兄弟にて行くものさへある。

河內郡德次郎地方の如きは、無足屋買、藝妓買する者に對しては年甲斐も無いとか、血氣な身でとか笑ひもし、妻子あるものは妻に嫉妬されるが、貸座敷に遊ぶ事は男は仕方がないと云ふて、新婦ですら妬かない、宴會を貸座敷で開くなどゝ云ふやうな事もある。

宇都宮では常に軍人が絶えない、相當の地位にある將校中にさへ、常習的に登樓して居るものがある、寧ろ軍隊では奬勵してると土地のものゝ十中九までは確信して居る。地位のある人では、辯護士連、縣廳、市役所、醫師、縣會議員など最多數にて、辯護士は、旅費及交際費として妻の目をクラマシ遊興費にあて、醫師は地方のもの最多く、年々一回づゝ開催の縣醫師會大會結了後は漏無く此處に遊ぶが一の慣例となり居り、近頃は藥劑士の會合にも老人連まで役人を案內し、此處にて慰安會を開くに至つた。

如何に繁昌しつゝあるかは、宇都宮のみにて一日平均百名以上の登樓者あり、物日節季などにて近在より人出ある際は一人の娼妓にて五人若くは八人宛の客をとる事珍らしくないと云ふ話を見ても分る。宇都宮の人は女郎も買へないやうな勇氣のない人は働けないと云ふて居る。されば妓樓の主人で縣會議員もあれば、町會議員もある。市會議員に乘出す者もある。選擧民も亦平氣で選擧して居る。娼妓は、福島、茨城、東京の者多數をしむれども、二三年來、其町其村のものにて現はるゝものも增加して來た。彼等は下級勞働者の妻たらんよりも、娼妓になつて日髮、日化粧裡に寢食するの立派なるを信じて居るのである。

惡制度顚覆の期刻々迫れり

京都　風馳生

試みに左の統計表を見よ、而して其莫大なる金錢の浪費に驚かざるものありや。左の統計表は所轄警察署の調査に係り娼妓貸座敷業者開廢の如きは最確實なるものなり遊客數及費消金高に至りては勿論實數此五增倍に達すべきは當事者自ら語る所なるが、其五分の一に過ぎざる屆出數すら左表の如き尨大なる數字を示せるは驚くべし、而も娼妓貸座敷業者の如きは前年に比し多大の增加を示し居れり、實に如斯現象を吾人は一日も看過し置くべきにあらず、嗚呼社會紊亂の惡制度を顚覆の時期刻々加はれり、奮へ、我廓清會員諸君！！

明治四十五年大正元年中京都府下ニ於ケル娼妓貸座敷業者開廢竝遊客人員費消金高表（十二月末日現在）

區別		娼妓 前年現在	娼妓 開業	娼妓 廢業	娼妓 現在	貸座敷 前年現在	貸座敷 開業	貸座敷 廢業	貸座敷 現在	遊客人員	費消金高
市部	祇園新地甲部	一〇八	四四	五三	九九	四六六	八〇	九一	四五五	一三二、三七四	九六万、六九二八円、一七〇
	同　乙部	二三三	一一三	一〇七	二三九	一七九	四五	二七	一九七	三一三、三八四	四〇、〇八七三、四九〇
	宮川町	三一〇	一八五	一八六	三〇九	三一九	六九	五八	三三〇	三三一、三六八	七六、九七八二、三七三
	先斗町	三二	三一	禁止 一三	三九	一七三	二〇	一三	一八〇	六〇、六六七	三〇、五〇二六、三二
	上七軒	四	二	三	三	三六	三	二	三七	一二、七四六	五、一一八、六二〇
	五番町	四〇〇	二三八	一四三	四九五	一二八	三五	一七	一四六	四六、〇三八	二〇、七八〇七、六七七
	島原	二二二	一四九	九一	二八〇	九二	三二	一四	一一〇	四五、四二七	七、三一三四、一〇五
	七條新地	一〇〇二	三二三	三〇〇	一〇二五	二三一	四〇	三八	二三三	一二九、五七四	一〇、二九二、四五〇
郡部	綴喜郡八幡町橋本	三七	二二	一七	四二	一七	二	｜	一九	七、七四七	八五四六、〇〇〇
	紀伊郡伏見町中書島	二四四	一五八	一二一	二八一	七六	一一	一二	七五	四八、一八一	三、〇三二四、五〇〇
	同　墨染	一七	一二	五	二四	一一	｜	一	一〇	四、九八六	七六六九、六二〇
	同　北惠比須町	三六	二〇	一九	三七	一〇	三	二	一一	八、二七二	九三四二、七〇〇
	天田郡庵我村猪崎新地	一〇八	七一	六一	一一八	六〇	九	一一	五八	一八、〇三五	三、三九六三、三三〇
	加佐郡舞鶴町朝代新地	六七	五七	七四	五〇	四五	五	五	四五	六七、五四一	五、七一五五、〇一〇
	同　新舞鶴町龍宮新地	一五六	一〇九	八二	一八三	三七	四	八	三三	一三〇、二一八	九、九九一二、一五〇
	同　加良津新地	七四	四五	四六	七三	三八	七	一〇	二五	二四、六六二	二、五七四二、四九〇
	與謝郡宮津町新濱新地	四一	三八	三五	四四	三七	六	四	三九	三六、八四一	三、五八五八、九〇〇
合計		三〇九一	一六一七	一三六七	三三四一	一九五五	三七[illegible]	三一三	一〇〇三	一四一八、〇六[illegible]	三一八、六一七七、九〇五

備考　本欄中ノ貸座敷トアルハ俗ニ云フ娼妓屋ノミニアラズ、藝妓屋ヲモ含ム

鬼面居士　おきやく論　一名　當世紳士論

記者曰く、標題のやうな著書が此程樂天社から出版されて評判になつて居る。一見した所では剽輕なる戯謔に過ぎないやうであるが、實はポケット論語先生の藝妓論よりも數等眞面目な著書だ。「東京日々」は之を評して曰く、「藝者論のやうな愚論でない天下の奇論か正論か將た怪著であるか快論でないかは讀んでの上の判斷に任ずるとは本論の廣告に自ら叫ぶ所であるだけに其犀利輕快なる筆鋒に交ふるに頤を解くに足る諧謔と骨を刺すの諷刺とを以てし當世紳士の裏面を素破拔き而して其醜行を指摘攻撃して假借する所なく當世紳士をして顏色を失はしめ更らに筆を新にしてお客亡國論を唱へ其亡國の元兇は政界實業界の元老元勳なりと喝破して不良老年に愛想をつかし最後に結論として當局に待合禁止魔窟征伐の勵行を望み同時に未來の淑女紳士たるべきものに對して最も重大なる望みを囑したるは現今の如き所謂お客道流行淫蕩輕佻陰險姦佞なる氣風の盛なる時弊に最も適切痛快なる警世矯風の大文字と謂ふべく一時の快を取るべき一遍の戯文戯著たるに止らぬので有その著者鬼面居士とは果して何人なりやこゝに素破拔かぬが花として素破拔かれる當世紳士は勿論令夫人未來の淑女紳士新らしき女、古き女、藝者女優、猫も杓子も熟讀玩味すべき快著なり」兎に角讀者諸君の參考に供せんため、「雜誌の雜誌」欄に代へて此書の概要を拔載する事にした。

ゲイシャガールは日本の名物

▲笑ふべく憐むべき藝術

彈くシャミセンの音は高からずと雖も、ゲイシャガールの名は世界に鳴り響いたものぢや。日本に一び足を入れた外國人で、富士山、日光、箱根など、よし見落しても、ゲイシャガールを見なければ、日本を見たとは言へないとまでに評判されて居る。

朝鮮に官妓と云ふものがあつて、それもなかなか評判であつた。而も、それは勿體なくも一個の王樣が、官費を以て學校を立てさせて朝鮮十八道の隅々から、美人と云ふ美人を選りに選り拔いて、その學校に集めて、藝術は勿論、いろ〳〵な本まで讀ませて養成するのだから、實に太したもので。この學校の費用に充つるだけでも、憫れな土百姓の幾千人の膏血を搾つて居たか知れないのぢや。是れも、世界に類のない一つであつたが、いくら王樣の仕事、皇室直轄の事業であつても、藝術の幼稚な、半開の朝鮮のことで、朝鮮の王樣以下の官人に取つては、無上の娯樂機關であつたであらうが、他の文明國人の眼から見れば、笑ふべく憫むべきもので、唯是れが、内々肉の切り賣りをすると云ふの外には、外人の賞讃をば博するを得なかつた。

而して、その日本に合併された後は、この一名物の學校も廢滅に歸して、今は當時の遺物が、京城あたりに潜んで居て、高麗燒の玩物などゝ共に、僅かにその面影を留めて居るばかりぢやさうな。それから、お隣りの支那にも、歌ふたり舞ふたりする、歌妓とか舞妓とか云ふものはある。が、是れも亦朝鮮の官妓、妓生と甲乙のないものだと云ふことだ。

▲天下無類の待合

こゝに又、その藝者の藝術、技術を演ずるの場處と

して、待合と云ふ一種の商賣が公許されてある。料理屋、カフエー、ビヤーホール、正宗ホール、ミルクホール、銘酒屋其他の飲食店の外に、藝者を招聘するの場處として、待合なる商賣の公許されてあるのは、是れ亦恐らく天下無類であらう。日本の遊廓、公々然賣婬を特許してある所の女郎屋、その娼婦のおいらんなるものも、世界に大評判を取つては居るが、遊廓、女郎屋なるものは、當世紳士の足を入るべき場處でない、紳士の遊び場處、イヤ宴會の場處は、待合茶屋であると、云ふくらゐの事は、外國人にも解つて來て、來遊の外國紳士、旅の恥はかき捨ての異人のお客さんでも、おいらんを口にせずして、ゲイシヤガールお茶屋の遊びを要求するやうになつたさうである。既に名物の藝者あり。特有の待合茶屋あり。そこに出入りして藝者を買ふものにも、それに相當した一種特別の名がなければならぬ。

▲お客の稱號及種族階級

と云ふ譯でもなからうが、その待合茶屋に於て、藝者を弄び、藝者に弄ばるゝものを稱して「お客」と云ふのである。而して、單に待合茶屋のみならず、他のお茶屋、即ち料理屋に於て藝者を招聘するものも、總じて之を「お客」と稱するので、お客とは、普通一般に藝者の對手たるものゝ一種の稱號となつて居るのぢや。我藝者、及び待合の世界に比類なきが如く、又武士、さむらいの我特有なるが如く、このお客なる言葉も、外國語に譯しては、如何に言葉の數の多い文明先進國の語にも、一語能くその意義を明白にすることは出來まい。

而して、そのお客なるものには、如何なる種族、如何なる階級の人がなるのであるか。お茶屋のお客、待合のお客、藝者のお客、と云へば、聊か妙な感じがする、何だか非常な道樂息子か、遊冶郎のやうにも聞えるが、なかなか以てさうでない。上は、世に時めき給ふ所の元老、大臣より、下は、陣笠議員に至るまでの所謂政治家、政客。大は、三井、岩崎以下の富豪、大會社、大銀行の總裁、社長、頭取より、小は、イカサマ銀行、のモグリ會社の自稱重役に至るまでの、所謂實業家は申すまでもなく。其他、我社會の中流以上の階級に屬する所謂紳士、準紳士、似非紳士、紳士の贋物、紳士の未成品、紳士の卵子等にして、荷くも、藝者と、そうしてお茶屋なる商賣の公許されてある都會に於て、そのお客たらざるものは、恐らく絶無と言つて可らう。

待合とは抑々何ぞや

▲論より證據の統計

當世紳士が如何に宴會を好むか、如何に藝者のお客たるを樂むかを、論より證據の統計の上に示さんか。即ち左の表を一覽あらば、なるほどゝ合點が參るであらう。

區名	藝妓屋	藝妓	料理屋	待合	船宿	貸席	飲食店
日本橋	三九八	九五〇	八八	二五一	三	一六	五〇九
京橋	三五三	八五八	七六	一二八	七	一五	六四〇
淺草	三〇一	六三〇	四三	二一	一	一〇	一〇八五
芝	一三〇	三五八	七七	九〇	〇	六	七七六
牛込	八五	一六五	三九	五五	二	四	四六八
本郷	一四〇	二五三	三	四〇	〇	九	四〇三
赤坂	六八	三〇六	二九	八二	〇	〇	二五二
麹町	五三	一六七	一三	五四	〇	五	一六一
四谷	四八	一四四	一四	三六	〇	〇	二二九
下谷	七五	一三三	一八	二五	〇	二三	七五三
深川	五七	一三	六	六	〇	一	八〇二
本所	四四	七七	一七	二九	〇	五	九四四
小石川	〇	〇	五五	〇	〇	一	五八七
麻布	〇	〇	一七	〇	〇	〇	三九九
合計	一七三八	四二一二	五三六	九七九	一三	一〇四	八五五六
郡部	一七〇	四八七	三〇〇	四七	〇	一六	五一三七

（本表は明治四十五年六月末日警視廳の調べに依る）

右の統計に依れば、藝者、待合、料理屋、飲食店等は、東京市中到る處に行渡つたもので。十五區の内、藝者と待合のない區は、小石川と麻布とばかりであつて、その二區が、如何に山手の開けない町であるかと云ふことは、それを以て知られるのぢや。聞けば、その二區の内小石川には、この統計の出來た後、既に幾人かの藝者が出來たとか云へば、今は麻布が十五區中の最も未開の區となつた譯である。

▲四千二百十二名の藝者、九百七十九戸の待合

さて、東京市中の藝者屋の數が一千七百三十八。それに抱へられ、若くは獨立して所謂自前でやつて居る藝者の總數が、實に四千二百十二名。その四千二百十二名の藝者の稼ぎ場處たる待合の數が九百七十九戸。而して五百三十八軒の料理屋の中には、或は三味線を持つては這入らぬ家もあるであらうが、その大多數は、無論藝

者を當てにしてのものである。此の如く多數の藝者が、此の如く多數の料理屋は待合、船宿、貸席を根據として、日夜稼いで居る、發展して居る、ゴム輪の車、時としては自働車を飛ばして運動して居る。之に對するお客の數は幾千、幾萬に上るが、その統計は得るに由なけれど、蓋し、驚くべき數であることは、推測するに難かるまい。

* * * * *

然るに、料理屋の外に待合と云ふものがあつて、却て料理屋を壓倒する勢である。宴會の流れ寄れの、二次會、三次會と云ふのばかりでなく、稍や多人數の、比較的眞面目な宴會でさへも、料理屋倶樂部に於てせず、羽織袴の第一次會からして、待合で催ほすのが多くなつて來た。待合の方でも、その需要に應ずるだけの用意をなし、料理屋に負けぬ大廣間を備へた家も少なくないさうな。それくらゐならば、待合とせず、料理屋の看板を掲げたら可さゝうなものだが、矢張り待合として商賣するのは、どう云ふものであらう。全體が、待合なる商賣は、何を目的に、如何なる商賣をすると云ふ名義の下に、公然許可されてあるのであらう。停車場の待合室、病院の患者控室、お役所の人民控所、是等は明白にその意義が現はれて居るが、東京全市、十五區中の十四區まで行渡つて、到る處に軒燈を掲げてある待合とは、抑々何をする家であらう。

▲待合の意義—魔窟

待合とは、乘客が汽車を待合はせる、停車場の待合と同意義で、お客がお客を待合はせる場處である。と言ひたいが、其の實は、お客が藝者を待合はせる處、即ち、藝者に口をかけて、その來着する間を待合はせる場處であつて。その停車場の待合と異なる點は、停車場の待合のお客は、汽車が着けば乘つて出かけるが、待合のお客は、藝者が來れば唯室を換ふるばかりで、何處にも出かけるのでない。中には、遠出とか、芝居見物とかの約束を果すが爲めに、お客か藝者か、孰れの方かゞ先きに來て待合はせると云ふくらゐな、事實上の待合はせもなくはなからうが、停車場の待合の意味からすれば、寧ろ料理屋、宴會の第一次會を開く料理屋の方が、待合と云ふに適して居るので。この待合なるものは、どうしても字義に適して居ない。などゝ字義の説明などクド／＼して居たので、矢張り明白でない。簡單でない。一層露骨に打開けて言へば、待合とは、お客に藝者、即ち賣娼婦を取持つ所の娼賣屋である。所謂地獄宿である、魔窟であるのぢや。而して、その對手たるものは、普通一般に藝者所謂不見轉藝者であるのは勿論、藝者の外に高等の内侍、下つては白首と云ふものもあれば。近頃は、女優もなか／＼此方面に發展して、高等娼賣の向ふを張つて居るさうである。

待合は即ち宴會の會場と、地獄宿とを兼れたものである。當世紳士の慾を充たすに、最好最適の場處である。料理屋よりも一段便利な場處である。からして、料理屋を壓倒してます／＼繁昌し、その數の日に増し増加するのも當然の理である。そこで、一方の料理屋の方でも、默つて見て居ず、内々待合の特權を犯して、待合同様の内職をなすものが、段々多くなつたさうぢや。これも、自衛上已むを得ない所であらうか。

お客のお客たる理由

▲交際上の必要已むを得ず

我當世紳士たるものは、何故に、何の爲めに、かく宴會に次ぐに宴會を以てし、人を招き人に招かれ、お茶屋のお客、藝者のお客となりたがる者であるかと云ふに。泥坊にも亦三分の理ありとか云ふことあり、義賊と云ふものもある世の中ぢや。お客たるにも亦多少の理由、口實の存するもの無くんばあらずであらう。その第一の理由は、交際上の必要已むを得ざるに出づ、と云ふのである。

さて紳士が、今の世に處して行くのに、最も必要なるは交際である。社會の交際、社交と云ふものは、世の進むに連れ、人の豪くなるに隨ひ、段々廣く、且つ繁くなるものぢや。日本も世界の一等國の仲間に入り、日本の紳士も、一等國の紳士となつた。島國の政治家は、世界の政治家となり。金持はます／＼金が殖え、成金は、實業、政治其他の各方面に拔り生へたに連れて、交際の範圍はます／＼擴がり、交際の機會はいよ／＼頻繁となつて來た。殊に、各方面に最も廣い關係を持てる商賣人、所謂實業家となつては、この交際と云ふことが、他の仕事よりかも最も大切である。會社や銀行の重要な事務は、使用人に任せて置いても、交際には、重役自身が當らればならぬ。誰も好んで當りたくはないが、その地位、職責の上よりして已むを得ないのである。唯會社、銀行の爲めのみでなく、自家の紳士たる立場よりも、各方面の交際を等閑にしてはならぬ。と云ふ譯で、他の仕事は懈けても、交際には

勤める。爲めに、午前中には、殆ど其の銀行、會社に出たことのないと云ふ重役がある。甚だしきは、午後四時、即ち役員、社員の退出の時刻でなければ出勤しないと云ふ、尻の貫目の重い重役もあるさうな。

然り而して、その交際とは、どんな仕事かと云ふに、先づ冠婚葬祭である。が、冠と云ふものは、今はない。そこで、就中、最も大切なのは、葬式である、葬式に參列することである。その死者の生前、親交ありしと否とは、問ふ所でない。死者當人、若くは死者の親戚縁者が、社會に羽振りの好いもので、多數の紳士の參列する葬式には、禮服禮帽を着けて、時間を啓ます參列して置けば、先方には敬意を表し、自分の顏をば參列者に廣告すると云ふ、一擧兩得の策となる。そこで、葬式を營む方でも、成るべく立派な紳士の顏觸れ、一人にても多くの紳士の數を集めれば、幅がきかぬ、死んだものも浮ばぬと云ふ譯で。新聞廣告にも、あまり懇意でない先輩の名前を、友人總代の部に羅列して、參列者を誘き出すことに努める。双方相待つて、葬儀はますく賑はふ。何の某氏の嚴父、若くは夫人の葬儀が行はれた。何々の大臣、何々元老の代理、何々銀行の總裁、何々會社の社長以下、無慮何千何百人の參列があつて、なかくの盛儀であつた。と、翌日の新聞に書かれる。それが何よりの死者の追善であるか、どうかは知らぬが、生存者の慰安であるのぢや。されば世に羽振りの好かつた紳士當人の葬式よりも、その前に死んだ老父さんか、奥さまの方の葬儀が盛んであると云ふのは、一般普通の例となつて、誰も怪まぬのぢや。かく、葬式の參列は、交際上第一の勤であるが。

但しぢや、途上他人の葬式などに出會しても、車を駐めたり、敬禮を施したりするのは、餘計な手間暇費しぢや、多忙な紳士のなすに堪らぬことぢや。

これより著者は「お客のお客たる理由」と題して泥坊でも三分の理あり、お客にも亦多少の理由ながらんや、即ち其第一の理由——口實は交際上の必要已むを得ざるに出づといふにありとて、今の一等國の紳士たるものは仕事よりも交際を先きにし、會社の重役は罪惡的交際の器械なる事を揶揄し次に曰く

▲仕事よりも交際

同じ交際でも、世間の交際は、通り一遍の挨拶、表面の禮式、言はゞ繁文縟禮的形式に過ぎぬのである。この表面の形式は形式として、飽くまで型の如くに敬意を表して置いて。そうして甚夜に及んで、料理屋に待合に、宴會を開き、招待し招待され、或は官say、時としては兵隊さんともなり。一次會で足られば二次會、二次會で尚ほ滿足せれば、三次會まで重れて、懇親な結び、醜交を重ね、醜關係を附け、惡因緣を結ぶとに すれば、一夜の醜交一同の夜の交際は、能く百年の知己を作るを得べく。役所や自宅で、どんな七六づかしい鬪寛面をして居た役人でも、御前でも、殿樣でも、ゲンニヤリとなり、二本棒の惡比須顏となること、仍て件の如しで、最も効驗ある交際の秘訣である。

この秘訣たるや、今は誰も知らぬものなく、公知公用の秘訣となつて居て。苟くも交際の必要あり、社交の心得あるものゝ、一般に用ふる所であるのぢや。然るに、之を利用、應用し、取て以て自家の事實とせること、日本郵船會社の如きは、古往今來、他に類例な見ざる所であると評判である。

今、同社の交際振りを聞くに。在朝在野の元勳、元老は申すに及ばず、時の內閣大臣以下當局の官僚、貴衆兩議員の重立てるもの、有力なる新聞記者。其他同會社に直接、間接となく多少の利害關係を有する向きくには、それく等差を設けて、盆暮れのお遣ひ物を缺かさず。其上に、一年二回以上、その對手に依り必要に應じては幾回となく、河岸を換へ、藝者を換へ、手を換へ品を換へて、交際の秘訣を盡すので。交際係りと云ふ專門の係りも置いてはあるが、社長、副社長の重役は、常にお客の接待と、自からお客となることに忙殺され。爲めに精力を盡し、心身を勞して、會社の事務などは見るの遑も、氣魂もないと云ふ程であるさうな。だからして、郵船會社のお方と云へば、到る處の花柳界に於て、大持てに持てること、銀行屋さんの比にあらず。同社のお客專門で、優に暖簾の張つて行けるお茶屋、藝者屋も少なからぬさうで、新橋邊では、郵船會社の人にあらざればお客にあらずと、心得て居るもの多いとか。

サツとかやうな譯のもので、郵船會社の方ばかりでなく、各銀行、各會社の重役以下使用人に至るまで、交際はなかく能く勤める。而して唯實業方面のみでは無論なく、政治家でござれ、學者でござれ、醫者でござれ、軍人でござれ、辯護士でござれ、文士、畫師、僧侶、高利貸しでござれ、皇室の藩屏、國民の儀表たる公、侯、伯、子、男でござれ、夜の交際を勤めざるものは、紳士でない、人でない。と云ふのだから、そ

の忙さ加減は、晝間形式的仕事の比でない。中には一年に三百六十五回以上お客を勤ると云ふ流行兒もある。

されば、社會に羽振りの好い紳士となると、晝間の交際に次ぐに、夜の交際を以てする、その煩忙はなか〱一通りでない。ゴム輪自用車、さし曳き、後押しでも追附くものでない。此に於てか自働車の必要と云ふことは起るので、近頃追々東京市中に横行して來たる所の自働車の多くは、事業の繁劇なるが爲めに使用さるゝのでなく、この煩忙なる晝夜兼行の交際の爲に使用さるゝのぢやさうな。抑々この交際と云ふとは、日本の紳士の新發明、新工夫ぢやない。

▲歐米の交際社會

歐米諸國の社交と云ふものは、他の事物の進歩と共に頗る進んで居る。就中交際の中心たる所の巴里とか、倫敦とか、紐育とかの交際社會と云ふのは、随分花々しいものぢや、大したものぢや。その紳士淑女の數奇を凝らし、贅澤を極めたる宴會、夜會となつては沐猴冠の、シミッタレの東洋紳士の企て及ぶ所ぢやない。が、併し、如何に金を吝まず、數奇を凝らし、贅澤の限りを盡す所の紳士淑女でも、時間は吝む。だらしなく、不規律に、一年三百六十五日打通しにはやらぬ。交際にも期節がある。唯期節が限られてあるばかりでなく、その範圍も自づから限られてある。交際場裡に出入りする人、即ちソサイチーメンと云ふものは、凡そ定つて居る。而して、その交際場裡の花たるもの王たるものは、淑女であることは言ふまでもない。それから見ると、日本の交際社會は聊か違ひはすまいか、否大きな懸隔がありはすまいか。第一我交際社會には期節と云ふものがない。春夏秋冬、三百六十五日打通しである。第二、金も財産もない奴が、借金をして、交際社會に幅をきかして居ることがある。第三、我交際社會の花は、淑女でなくて醜業婦である、淑女は寧ろ我交際社會から排斥疎外されて居る。第四、我交際場には主として四疊半の小座敷である。以上は、その相違の著しい點である。而して、その贅澤の程度、仕掛の大小、設備の優劣に至ては、固より較べ物にならないが、唯時間をだらしなく浪費する點と、身分不相應の贅澤をする事とに至ては、天下我交際社會に及ぶものはあるまい。此の如き交際は、果して處世上の必要に出たものであらうか。而して、泥坊ぐらゐの理はあるであらうか。

▲獸類を侮辱する人間

これより再び同じ「お客のお客たる理由」の題下に、煩悶なきものは歡聞あり、――ミセラブルなる煩悶――虚榮の爲のお客――常習となれるお客――お客政略、待合政略――を叙し、更にお客の野獸的傾向を述べ、藝妓の娼妓に同化せる事實を語り、扨曰く

そこで、野獸主義一點張りと言つては見たが、又熟々考へて見るに、當世紳士たるお客に對し、野獸呼はりをするのは、稍や氣の毒である、不穩當ではなからうかと云ふ心配が起つて來た。それはざんな譯かと云ふに、如何に野獸主義流行の花柳社會、交際社會でも、中には、多少の取除け、例外と云ふものはなければならぬ。その野獸例外の紳士、セントルマンに對し氣の毒である。と云ふのならば、我輩も聊かあやまり甲斐があるのであるが、甚だ殘念ながら、さうではない、之を野獸主義と稱しては、野獸の方から抗議が來さうな心配があるのぢや。即ち、稱して獸慾とか、野獸主義とか云ふが。抑々獸類には、概して交尾の期節あり、且つ強姦なるものは、曾て行はれたことがない。然るに、このお客なるものは、日夜のべつに待合に出入りしては、金轡を嵌めて、憐れむべき少女の貞操を蹂躙して居るのぢや。唯その犯罪が、人間の作つた法律の網に罹らぬと云ふまでゞあつて、實に言語同斷、獸類の風上にも置けぬものである。と云ふ抗議が、獸類の方から來さうである。却て、人間が獸類を侮辱した者である。と云ふことぢや。我輩は、なるほど、獸類に對して氣の毒な感じがする。が、野獸主義を取消しては他に適當の言葉のないのに困る。然らば自然主義と云はんか、強姦は自然であるとも云はれない。よしさらば、萬が一にも、阿弗利加の獅子や、印度の虎や象が、全世界の獸類を代表して、我輩の住家に押し寄せて來たならば。我輩之を説得して、彼等獸類の風上に置けぬお客、彼等を侮辱せる所のお客、就中最も野獸の目に附きさうな成金客の方に差向けるとしよう。

▲米價問題とお客料

之より今の世に元の切れる商賣の大關横綱は、新聞と議員と藝妓とお客なる所爲を述べそれより「お客經濟を論じ、曰く」

近頃、米價問題がなか〱八釜しい。何故八釜しいかと云ふと、米の値が一石二十何圓に上つたと云ふ爲

めである。所で、その米、米の飯を、一ヶ月にどれ程食ふかと云ふに、假りに一日四合宛として、一ヶ月に一斗二升。それを一石二十圓の米として三圓となるのぢや。然るに、藝者を一度買ふとすれば、どんな出來の藝者でも、この一ヶ月分の米代で買へる處はあるまい。それを、米が騰がつた、暮し向きが一層困難になつた。月給を上げて貰はねば家族の口が乾上がる、とこぼしながらも、尙は仲間の附合ひで、月に二度も三度も宴會に行き、一家三四人の一ヶ月分の米代を棒に振るものがある。そんなのは最下等のお客、言ふに足らずとして。最高等の待合に、第一流の藝者を招きその旦那となり、親類となつて遊ぶものに至つては、少ない費用で間に合ふものではない。子息の學資の一ヶ月分くらゐは、一夕の宴會に烟となる。

そこで經濟法は所謂「女郎買の糠味噌汁」と同主義でたまに贅澤をするが爲に平常の必要なる費用を切りつめ、自分一身の愉快を買はんが爲に、「全家族を犧牲にするは必死の勢である」と曰ひ、更にそれでも足るべくもあらぬので行き詰まつた裏の脫裏、これが即ち銀行會社員罪惡の根源なりと曰ふ

▲銀行會社員墮落の段取り

先づ最初は、型の如くに借金政略と出かける。…が、擔保なしでは大金は借りられない、已を得ず高利の金を借る、利息は積もる、…元金は多くなる。矢張り藝者の借金、政府の外債と同じく、遂には遣り切れなくなる。となると云ふと、…一家の財政整理、經費節減をやつて見た所で追近くものでない。サアどうしたら可からう。と有るだけの智慧袋を搾つた末、仕方がない、運ぶ天ぶぢや、相場でもやつて見よう。と云ふことになり、借金の上繰理算段して、ナキの二十枚が三十枚も張つて見る、ちよいと儲かつて又損をする。…サアこうなると、背に腹は換へられぬ、惡いこと丶知りつ丶も、その勤めて居る銀行か、會社の金を、一時内々に拜借する。それを元手にして、今度は、最初よりも稍や大きな定期をやつて見る。又損をする、元手がなくなる。もうかうなりやヤケぢや、毒を喰はば皿までぢや、と、いよ／＼膽太くなつて、帳簿をゴマかす。一人ぢやばれる、巧く行かぬと云ふので、待合政略にかけて同僚を捲込み、遂には上役の印判を盜み出して、約束手形で大金を融通する。その金で以て、いよ／＼相場も大きくやれば、お客の方もます／＼盛んにやる。暫らくは全盛を極めて居るが、いくら凡暗の上役にも、さう／＼は隱し切れぬ。内から綻びるか、外からばれるか、忽ちにして、手は後に廻はされ、家族の驚き騒ぐのを後にして、身は監獄の人となる、と云ふ落ちになるのぢや。と、拙劣な書生芝居の筋のやうに、一定してゐるものであるまいが、よし多少の筋の違ひはあるにしても、大概はマアこんなもので、お客の資金に窮した後は、委託金消費をやるか、詐欺取財をやるか、窃盜罪を犯すかの不正行爲をやるものと、大體の筋は定つて居る。近頃頻繁に現はる丶所の銀行、會社員の費ひ込みの本、その罪惡の根源は、多くは、當世紳士を見やう見眞似のお客道樂にあるのぢや。

お客道の主義綱領

次に著者は「拙見には拙見のおきてあり、お客にはお客道の主義綱領なかるべからず」とて、第一に酒に醉ふべし、酒に醉はざれば、茶若しくは水に醉ふべし、第二、醉ふてはお客の七忘を守るべしといひ、其七忘れとは

▲第一、身分職業を忘るゝ事

既に一たび、お客道の道場に足を入れた以上は、乃公の身分は、皇室の藩屛、國民の儀表たるべき華族であるの。武士道の典型、軍人の模範たるべき大將、元帥であるの。自分の職業は、教育家であるの、坊主、宣教師、神官であるの。そんなことは、一切忘却せねばならぬ。一國の總理大臣であつても、國家の元老元勳であつても。お茶屋の女將、おなじみの藝者の前に出ては、朋輩か親類の氣で居ればならぬ。假令ひ鼻毛を拔かれ、耳朶を引張れても苦い顏をしてはならぬ。

▲第二、お客たるを忘るゝ事

既にその身分職業を忘る。俺はお客であるぞ、金はそれ程に費はないでも大事な常連客であるぞ、など丶お客顏をなすべからず。一般無關係の藝者に對しても、金を出して呼んでやつたと云ふ素振りを見せず、藝者に呼ばれた積りで藝者を遊ばせ。藝者も、女將も、女中も、幇間も一切平等、總べて朋輩、親類の心得を以て附き合ふ事、最も肝要の心得である。

▲第三、年齢を忘るゝ事

「戰場に出でん時は、髮を染めんと思ふなり。平生にても、若き人は白髮を見て侮る心あり。まして戰場に

ては、進まんとすれば大人げなしとあざけり。退く時は、今はかなふまじとそしる。白髪頭にて、若き人と先を爭ふもはばかりあり。悲しきは老の白髪なり」とは、平家の老武者齋藤の別當實盛君の述懐にあらずや。まして況んや、蝶々の如き髷、花の如き友禪縮緬に向つて、戰ひを挑み、鎬をけづらんとする四疊半の戦場に於てをや。よし白髪は白髪染めを以て染むべしと雖も、取る年浪の顔の皺を如何にせんや。又白髪は一本もなしと雖も、黒毛も亦一本もなきピンツル頭を如何にせんやぢや。白髪や、顔の皺や、頭の禿げに心を痛め、矢張り一種の煩悶をするやうなことでは。實盛時代の武士道には兎に角、明治大正のお客道にはかなはぬ。そんな外観などには頓着なく、唯面の皮の千枚張りを更に張り足し。銅張り鐵張り、尚ほ不充分ならば、更に之を鋼鐵張りにして、對手が何と見やうと氣にせず、自分獨り年齢を忘れて猛進すべきである。而して、對手の年齢は、自分の年齢と反比例に。妹より娘、娘より孫娘と、段々に若いのを選ばねばならぬ。

▲第四、時と金とを忘るる事

「時是れ金」と云ふことは、お茶屋の座敷に於て最も現金に、算盤珠の上に現はるゝものが、待合の門、若くは格子をくゞつた以上は。時だの、金だの、そんなケチな考へは毛頭出さず。午前九時の役所、會社の出勤時間であらうが、午後十二時を過ぎ、零時、一時、二時にならうが。よし箒を立てられ、下駄に灸をすゑられやうが、構ふことはない。時と云ふ觀念は、頭に置くべからずぢや。

▲第五、恥と外聞を忘るる事

こんな馬鹿遊びをしちやア、人が笑ひはしないかとか。若し是れが新聞に出ちやア、紳士の體面に關するとか。どうしては恥だとか、かうしては外聞にかゝはるとか。世間に對し人に對する廉恥だの、外聞だの、そんな事は二の次ぎとして。あれを口說いて、鐵砲を喰ッちやア男の恥ぢやとか。この年齢、この面をしてあの可憐な若い妓の取持ちを、老婆の女將に頼んぢやア、チト極りが悪いとか。そんなことにはにかむやうな面の皮の薄いものは、お客道に不向きぢや。藝者、お茶屋、お茶屋の眷族どもに對する見榮の外に、恥と外聞とを氣にするの必要は、お客道にはない。

▲第六、風紀衛生を忘るる事

既に恥と外聞とを忘る、社會の風紀がどうだの、德義がかうだの。毀譽褒貶がどうしたのと。そんなことに頓着せざるは、無論の事。アルコール中毒に體を傷めやうとか、あまりの耽溺に精力を耗失しやうとか。或は又、梅毒はないか、肺病が傳染しはしないかなど、衛生に注意するやうでは、お客にはなれぬ。風紀、衛生、總べて忘るべし。

▲第七、家庭を忘るる事

武士道に於ては、大義親を滅すと云ふことあり。お客道に於ても、親子兄弟の關係の爲めに、遠慮し、躊躇すべきにあらず。時として、親子鎬をけづり、兄弟[illegible]てをなすも亦戰國の習ひ、已むを得ざる次第なり。されば家庭の如きは、之を良妻賢母に打任せて顧るべきにあらず。子女の教育よりも、注意すべきは藝者の半襟、雛妓の花簪なり。夜は十二時過ぎ、一時、二時に歸り、朝は十時、十一時より早起きせざるを例とし。子女と父兄との對面は、多きも一週一度を超ゆべからず。かくても尚ほ毎夜家に歸りて寐るものは、お客道に忠實なるものにあらず。全く家庭の所在を忘却して、待合、藝者屋、妾宅と、先きから先きに夜泊り日泊りして、月に二日か三日より家に寄り附かざるものは、蓋しお客道の達人、模範的豪傑と謂つべきなり。而して、此くの如くに家庭を忘却す。豈に、社會あらんや、豈にそれ國家あらんやぢや。

右の七忘を守つて、始めてお客道に入るのである。而して、以上記す所は、お客道の綱領に過ぎず。尚ほ之を詳説せんには、到底小冊子の盡す可き所であるまい。

有髯の藝者顔色ありや

▲藝者も亦人の子

以上を以て足れりとせず、著者は更に蝶子なる一藝者の口を借りて當世の紳士の假面を剝ぎとり、之を痛罵して殆んご完膚なからしむ。曰く

藝者々々ッて、さう馬鹿にするもんぢやありませんよ。藝者だつて女ですよ、人の子ですよ。猫の皮を被つて生れたのぢやありませんよ。中には芝居や小説にあるやうな、親の爲め家の爲めに、切端詰つて據んごころなく、それほど腐敗した泥水とは知らずに身を沈めた孝行娘もなくはないのですよ。又中には、大勳位公爵の御落胤などもあつたと云ふぢやありませんか。

一體全體、藝者と云ふものを今のやうに墮落の淵に沈めたのは、誰でしよう、誰の罪でしよう、どなたがお惡いのでしよう。藝者の事を彼れ此れ仰有るよりか、その前にお客の方から穿鑿して貰ひたいもんですネ。

▲さかりの附いた野良犬

こゝに一人新妓が廣めをしますとネ、新物好きのお客が、女將か女中の話しをきいてすぐに口をかけますよ。さうすとネ、そのお客が先づ目を着けるのはその妓の體格ですネ、次ぎが容貌、次ぎが眼つき、次ぎが鼻と口の大小と云ふやうな譯でしてネ、藝の上手下手と云ふことは、最後のごん尻、ほんのお景物ですよ。そして前に出てお酌をしますとネ、極り切つたお世辭を浴びせ、油をかけ、マア此方に來いと手を握つたり、腋の下や懷に手を入れやうとしたり。お客と云ふものは、まるで以てさかりのついた野良犬ですネー。

併し、大勢のお客の中にはネ、そんなのばかりでもなく、サツパリとした、嫌や味のない方もありますさ。夫で彼の方は嫌や味がなくて好いわネ、なんてなとを陰で言ひますとネ朋輩か女中から夫を聞きつけて昨日まで嫌や味のなかつたお客が、打つて變つてすぐに嫌や味を出し、一人でやつて來て、目尻を下げてしなだれかゝることになるのですよ。それから又、彼の人の書いた小説は面白いとか、畫が巧いとか、彼のお客は髯が濃いとか薄いとか、背が高いとか低いとか、ちよいと噂をしても、すぐに何とか言ひ出すのですよ。男と云ふものは、己惚の強いものですネー。

だが、まだそんなのは罪のない所でして、中には非常に執念深いのがありますよ。お茶屋や待合の女中、女將、お婆さん藝者など抱き込んで、それは／＼いろ／＼の手を換へ品を換へて、嚇したり賺したり、金の光りを見せつけたりして、それでも諾めと云ふと、果ては無理往生に暴力を用ひたりしようとするのがありますよ。又ずつとひどいのになると、人を欺して遠出に連れ出し、他の連をばよそに外さして、二人さし向の膝詰め談判、果ては短刀だのピストルだのさし附けて脅迫するのがありますよ、呆れるぢやありませんか。

そしてそれがネ、蠣殼町か兜町邊のお客か、横濱あたりの人か、羽織ゴロだとか、藝者喰ひだとか云ふのならばですが、東京の紳士仲間で何の某とお名前の通つた一廉の紳士ぢやアありませんか。お名前をスツパ抜いたら貴下がたも多分御存じでしようよ。どうでございます、呆れ返るぢやありませんか。人を見たら泥坊と思へとかよく言ひますが、今のお客は全くそれですネ、イエ泥棒でも唯の泥棒ぢやありませんわネー、強盗に強姦はつきものだと言ひますが、マアその強盗の口ですわネー。藝者をするには、三味線はそつちのけにして、川上の貞奴さんのやうに柔術のお稽古でもして、肌には鎖帷子でも着てるか、さもなけりやア、ピストルか短刀でも呑んでお座敷に出なけりやなりませんわネー。

▲お客以上のお茶屋の壓迫

併しですネ、マアどんなに怖い思ひをしてゝ、お客のイカ談判の方は、どうにかかうにか逃げられますが、お客に頼まれたお茶屋や待合さんの壓迫を切り抜けるのは、又一段苦いのですよ。第一流の待合さんで、その大事のお客さんへの取持ちを諾かなからうものなら、すぐ箱止めと言つたやうなことになりますからネ。それもネ、段々年齡取つて、少しはマア姉さん株にでもなつて、朋輩やお茶屋に幅のきくやうになつて、そして我儘、何も我儘氣儘と云ふ譯ぢやありませんがネ、詰まり肉は賣らぬ、操の切り賣りはしませんと云ふことが通りものになつて來れば、それで又その變りものを呼んでやらうと云ふ物數奇の客もあつて、いくらか増しにはなつて來ますが、さうすると又一方には、その氣儘もの、變りものを、何とかして手に入れて、友達に誇つてやらうとか何とか云ふ不心得からして、一層しつこく附き纒ふて、いろ／＼なたくらみをする客が出て來て、いつになつても、呼吸のつける時はありませんよ。

▲男子に節操ありや

藝者と云へば猫だの、醜業婦だの、まるで人間でないやうに言ひますのも無理ではありますまい。併しですネ、今の世の中で、こんなに墮落してゐるのは藝者ばかりでしようか。男地獄の役者はどうでしよう、壯士俳優とか書生役者とか云つて、最初のうちこそ生意氣な事を言つて居ましたが、それが少し物になりさうになつた頃には、藝より先きに藝以外の[illegible]役者の男地獄の眞似の方が進んで居たではありませんか。そして此頃になつては、どつちが眞似をしてるのか判らなくなつたぢやありませんか。女の癖に生意氣を言ふやうですが、今の議員さんとかお役人とか、政治屋さんと

[illegible]論

か云ふのはどうでしよう。お客になつては横暴い藝者を玩弄物にしたり、慰み物にしたりして、女の大事な操と云ふものをムチヤクチヤに蹂み潰して居ますが、それが政治の舞臺に出て、男子の節操と云ふものがありますか。又銀行の重役だの、會社の役員だの、實業家ぢや、金持ぢやと言はれてる人逹の行ひはどうでしよう。私したちは世間の事は何も知りませんが、お茶屋や待合に來て遊んでるその様を見ると、どうも耐つたもんぢやありませんわネ。こんなお客が議事開、役所だの、會社だの、銀行だのに出て、その手下の人逹に大きな顔をして頤でお指圖をなさるのかと思ふと、何だかおかしくて吹き出したくなりますわネー。

―そりやア多い藝者の中には、お客以上の質の惡いのも居ますさ、正直なお客を騙して、遂にはその身代を潰させるやうなのもありますさ。併し、藝者をさうさせるやうにした、その根源はお客ぢやありませんか。自分たちが寄つてたかつて、藝者を墮落さして置いて、さうして藝者の改良だの、幽閉だのと勝手な熱を吐くのは、あんまり弱いものいぢめの手前勝手と云ふものぢやアありませんかネー。藝者と云ふ名前が、若し節操のない墮落女の代名詞と云ふならば、今のお客紳士は髯の有る藝者と言ひたくなりますわ。かう言はれて怒るやうなお客が、一人や二人はあつてほしいものですネー。女優が墮落したなんて、貴下かあいさうぢやアありませんか。あれも皆な俗が惡いからですよ、詰まり男ハ壓迫ですよ、お客の壓迫ですよ。重役と男役者の板挾みになつて、兩方から壓迫されてるのも有ると云ふぢやア有りませんか。私したちは實に女優に同情しますネ、涙を以て同情しますよ。

斯くてとう／＼我々公娼廢止論者が引合に出された。曰く

公娼廢止と待合禁止

▲無理非道なる公娼

政治は依怙のものぢや、法律は偏頗なものである。と、如何にその根源、性質に於て定まつたものであるとしても、兎も角も文明開化と云ふ二十世紀の今日ではないか。人肉の切り賣り、節操の切賣り、而して人身賣買、奴隷賣買以上の人身賣買、即ち娼妓、おいらん、女郎と云ふものが、國家の法律の下に公然と許されてあると云ふのは、實に言語道斷の次第である。理論の上からして、公娼を是とするの説が立つべきものでない。唯その時代の一時の御都合主義便宜主義よりして、假りに之を許したものであるのは言ふまでもないことで、それに對して、政治、法律、社會、道德、教育、宗教、衛生等の各方面からのそれ／＼の理論を主張し、筋を立てゝ廢娼を論ずるのは、聊か野暮臭いと言へば、マア野暮臭いやうなものゝ、論ずべきものは、大に論ずべく、運動するものは、その目的の遂せらるゝまで屈せず撓ゆまず大に運動するが可い。之を救世軍の自由廢業運動ぐらゐに放任してすまして居るのは、道德家、宗教家、教育家、衛生家、政治家、新聞記者、學者、識者、其他一般經世に志あるものゝ不注意、怠慢と言はねばならぬのぢや。

東京の入り口、關門とも言ふべき品川、新宿、千住の三宿に、尙ほ依然として遊廓を存し、その他に吉原洲崎の二廓まで置いてあると云ふのは、理論は別としても、如何にも見つともない、不體裁極まる。一日も速く之を潰したい。成らう事なら火事、洪水、地震、雷を一度にしかけて打潰してやりたいものぢや。

▲宮城を圍繞する公娼以上の害毒

がそれはそれとして、實際の事實上、公娼以上に社會に害毒を流すものがある。而もそれが帝國の首都たる東京の眞中にある、イヤ眞中と言はず場末と言はず、勿體なくも宮城を圍繞して、市中到る處に繩を張つて居るのに注意するものゝ少ないと云ふのは、我輩實に怪訝に耐へないのぢや。

かう言へば、清廉潔白なる救世軍の將校がたは、そりや大變ぢや、何處にそんなものがあるかと、眼を丸くなさるゝかも知れぬが。イヤ何、それは他ではござらぬ、諸君が不斷しよつ中御覽になる、寧ろ眼に馴れて平氣で見て居らるゝ所の、待合とそうして藝者とであるのぢや。諸君は、綺麗な着物を着、金鎖をぶら下げ、ダイヤや寶石を指頭に光らして市中を横行して、市中の子女を羨ませる所の娘、諸君も時としてそれを良家の令嬢と間違え、横目を使ひ、涎を流さるゝ所の女の子を、何と見らるゝか。そして又待合、貸席、船宿なる軒燈を掲げ、或は軒燈にはそれと記さゞるも、頗る立派なそうして氣取つた家を、何人の住宅、若くは如何なる商賣の家と見らるゝか。諸君は恐らく藝者買ひをなさつたことはあるまい、待合の格子をくゞつたことはござるまい。若し一度でもその家の奥の四疊・中に於て、その女の子のお客となつた經驗があるとす

れば、諸君は公娼廢止を唱へ、娼妓の自由廢業を勧誘なさるばかりでなく、必ずや待合禁止、魔窟征伐、而して藝者の自由廢業を主唱、勧誘して一大運動をやらねばならぬのであらう。

▲風紀紊亂病毒傳播

諸君よ、遊廓、女郎屋と云ふものは、理論から言へば、無論人道に反したけしからぬものであるが。その區劃は限られ、その醜業婦は外に出さず。而して今日にては、遊廓に一夜の春を買ふやうなものは、中流以下の、多くは下流社會のものであつて。それもおいらん、女郎買ひなる言葉は、お店の若僧でさへも口にするを避け、内々狐鼠々々と出かけるぐらゐになつて居るのぢや。然るにぢや、藝者買ひ、待合遊びの方はどうです。藝者屋、待合、貸席、船宿、料理屋と市中到る處に散在して、家には看板をかけ。藝者は褄を取り箱屋を伴に連れて横行し、満都の紳士は、夜となく晝となく相競ふてその魔窟に押し寄せ。お客も、藝者も、女中も、女將も、女優も、高等内侍も一緒になつて、風紀を紊し、風俗を壞り、害毒を流し、病毒を傳播するに勤めて居るのを、八釜しく騒ぎ立てるものはない啻に八釜しく言はないばかりでない、藝者、待合を口にせざるものは紳士でないと云ふことになり。社會の耳目たり木鐸たる所の新聞紙までが、紳士淑女、花嫁花婿と相並べて醜業婦の肖像を掲げ。花柳社會の消息挑發的記事を載せて、その後るゝを恐れ、足らざるを憂ふと云ふのは、何たる事でござるぞ。

救世軍の諸君、及び一般の公娼廢止論者諸君よ。人道に反した、不都合極まる法律、制度の改廢も無論やられねばならぬが、制度、法律と云ふものは、どうせ不公平な、得手勝手な男性の人間の作つたものぢや。法律改廢よりも一層急務である、而もその實際、社會に及ぼす害毒の最も甚だしい所の魔窟征伐、待合禁止から先きにするが、宗教家、經世家の務めではあるまいか。而して、我輩の所謂待合禁止と云ふことは、非常に難かしい出來ない相談ではない、詰まり、先頃行はれた早稻田の魔窟征伐を廣く市中に實行するまでの事なのぢや。

▲待合征伐は朝飯前の事

待合、船宿、貸席、そうして待合に均しき料理屋を禁止し、娼妓の眞似をする藝者を片ッ端から處分し、醜業藝者屋の營業を停止するくらゐの事は、日比谷原の蟬噪蛙鳴の舞臺に擔ぎ出す必要もなければ、平均七十何歳と云ふ長老會議、元老會議を煩はすの必要もなく。早稻田の魔窟を征伐したと同じ遣り方で、一警視總監の手加減次第でやッつけられる、言はゞ朝飯前の仕事ぢやなからうか。而してそこまでやらねばこの惡弊を除くことは出來るものでないのぢや。

藝者幽閉論、即ち藝者を娼妓同様、一廓に幽閉すべしとの議論もあるが、早撤廢せればならぬ公娼の遊廓の外に、更に私娼の遊廓まで作らうとするのは、到底行はるべき事ではあるまい、我輩の待合禁止論とても現在の待合、魔窟を全く禁止し、現在の賣婬藝者を盡く處分した處で。苟くも一方に、性慾を以て人生無上の娯樂、道樂とせる、野獸主義一點張りの當世紳士があつて、その道樂の對手、道樂の場處を、引ッ切りなしに要求する以上は、形を換へ品を換へて、後から後からと後繼者が續出して、この多くの色餓鬼どもの住ふ所の穢土が、一朝にして清淨無垢の樂園に化けるものではない、目の細い、大きな金の網でも作つて、一網の下に當世紳士をフン捕へて、太平洋のドン底にでも打ち込んで仕舞はなくては、到底市中の醜業婦、地獄宿は跡を絶つものではないのぢや。我輩それを知らぬ程の野暮、不通でもない。どうせ需要の有る處には供給の之に伴ふものであるが、我輩は、そんなに青筋を出し、腕を捲つた理論一點張りでなく、是れも矢張り勿論姑息なる御都合主義、便宜主義よりして、せめて表面の體裁を作りたい。實際の事實上、比較的害毒の少ない公娼よりも、最も害毒の多い默許的私娼、即ち待合、藝者の處分を先きにしたいと云ふ極めて温和な、着實な主張であるのぢや。是れには、公娼廢止論者諸君も御賛成になりさうなものぢや。而して理論としては、恐らく反對者はなからう。唯事實に於て反對するものは、待合、準待合、及び藝者屋の當事者、即ちその女將、親方ぐらゐのものであらう。

▲大魔窟征伐の行はれざるは何故

處がぢや、その譯もなく行はれさうな事が、實際にはなか／＼行はれない。早稻田の小魔窟征伐は、學生の力でさへも物にしたが、市中に大袈裟に地歩を占めた中流以上の魔窟に對しては、多數國民の輿論を尊重すると云ふ政友會内閣の警視總監などは、無論手が出さゝるのみならず、人權蹂躪だの、社會主義激成だの

なば平氣でやらるゝ所の官僚内閣。而も風紀の取締りとか、德教の普及とか、勤儉貯蓄とか、忠孝節義とか云ふことを最も八釜しく言はるゝ所の官僚内閣の内務大臣や、警視總監でさへも、なか／＼以て手を着けやうともされない。と云ふのは、抑々どう云ふ譯のものであらう。そこになると、失禮ながら救世軍の將校がた、及び其他の公娼廢止論者には、ちよいとお解りがありますまい。イヤ案外、それくらゐの事は百も承知とあれば、御免くださいだが。

▲女將の勢力、元老の後楯

さて我輩の存じ寄りに依れば、その待合、準待合、及び藝者屋の當事者たる女將、親方なるものが、思ひの外、驚くべき勢力を持つて居ることである。それが女中や藝者に對してならば、不思議もないが、政治家、實業家に對して、而もその最も有力なる元老、及び準元老とも云ふべき權勢家に對して、大勢力を持つて居ると云ふのぢやから、驚かざるを得まい。新聞紙上の記事に依つても見給へ、一流のお茶屋の主人の葬式には、元老、準元老の方々が自分自身、或は人目を憚つて代理を立て、必ず參列さるゝではないか。詰まり、彼等の間には、切つても切れない醜關係、惡因緣が纏つて、親友よりも濃く、親類よりも親しき交りが結ばれてあるのぢや。その醜關係とは何であるかと云ふと一口に言へば醜業婦の取持ち、即ち藝者の媒介であるのぢや。その多年の間に結ばれた惡因緣の力と云ふものは非常のもので、新橋第一流の待合、花柳界の元老だる瓢屋の女將などが、政界、實業界の元老に向つて口をきかうものなら、どんな事でも出來ぬことはない御前の一番おかあいがり遊ばす彼の妓のお腹に宿つたのぢやアございませんか。月など足りやうが足りまいが、そんなことは可いぢやアございませんか、月足らずと云ふこともありませあネ、若しか御前がお引取りになられば、淵川に身を投げるか、鐵道往生でもするツテ言つてますよ。彼の妓がかあいさうぢやありませんか、お引取りなさいよー。とせがめば、ウムそれもさうぢやなア、よし／＼かあいさうぢや、引取つてやらうと云ふことになり。何處の馬の骨、馬の脚の種、とも判らぬ、月の合はない子供を引取つて、蝶よ花よと育てる御前もあるとのことぢや。又彼の横濱に有名であつた故富貴樓の女將おくらの如きは、非常な勢力を持つたもので、神奈川縣知事の任命なども、おくらの聲掛りに依て、定つたこともあり。横濱に於て、諸閣政府、官僚内閣等にすがるべき問題の起れる時には、之をその當局大臣に說くよりも、先づおくら婆さんに賴まねばならぬと云ふほどのものであつたさうなが、惜しいかな、今や亡し。おくらの死は、横濱及び神奈川縣に取つての一大損失であつて、おくらにして尙ほ尙は在らば、横濱は今の如くに衰微はすまいと云ふことぢや。が、おくら逝くと雖も、尙はおくらに繼ぐものあり、其他前記兩女將に劣らざる剛の者、傑物もあり。元老女將に讓らぬ腕前を持てる老妓、及び若手の女將もあつて、現に尙ほなか／＼の勢力、實力を持つて居るのぢや。

▲微々たる大臣總監の權力

この大勢力に對しても、微々たる一內務大臣や、一警視總監の力の及ぶ所でない。總理大臣と雖も、內閣總掛りと雖も、めつたな事をやらうものなら、すぐに睨み倒されるのぢや。まして況んや、風俗係りの警部巡査輩に於てをやぢや、拙劣な眞似をして、高等待合にでも踏み込まうものなら、忽ちにして食ひぶちに離るゝこと、今尙ほ昔の如しであるのぢや。だからして現代に於ては淫賣狩りの角袖巡査と雖も、下等な端末の小料理屋などは兎に角、少なくとも新橋、柳橋、芳町、日本橋、赤坂、下谷邊の待合で、どんな眞似をして居ようと、無闇に踏み込むものぢやない。それも其筈ぢや、警視總監も、警保局長も、內務大臣も、其他の大臣官僚は申すに及ばず、在朝在野の政治家も、民間の實業家も、中流以上の紳士、社會の有力者は、相率ゐてその魔窟のお客となつて居るのぢや。元老、元勳の後見も後楯もあつたものか。社會の有力なる當世紳士の殆ど總べてが、一つ魔窟の貉、狸、狐、狼であるのぢやもの、魔窟營業の礎は盤石の如く、そのます／＼繁昌發展するのも、尤も千萬の次第であらう。

救世軍の將校諸君、及び廢娼論者諸君、諸君以て如何となす。諸君はまさかに、この一つ魔窟の中に這入られては居まいが、併し少なくとも、その魔窟の氛圍氣には包まれてはござらぬか。諸君は、市街を歩かるゝ時、唯電車や自働車を避け、左りを歩くことのみに注意せずに、藝者と云ふ令孃の如き美人、待合と云ふ立派な邸宅にも御注意あつて然るべしぢや。

▲お客亡國論

次はお客亡國論である。此段は特に識者が社會國家の爲めに眞劍の議論をして居る所であるので、是非引用せねばならぬ點ではあるが、併し其標題だけを見ても、大抵此雜誌の本論で論ぜられさうな事であるから遺憾ながら茲には只其要點だけを拔いておく。即ちお客は亡國論の本家本元にして第一には金を濫費し、第二には時を濫費し、第三投機思想を盛にして人間を不眞面目にし、第四士氣を浮薄ならしめ、人情を陰險にし、第五國の元氣を衰耗し、第六病毒を傳播し國民の體力を弱め、第七古物を愛玩し新思想を閉塞せしむること等を詳論して居る。

斯くて結論に達せんとする前、更に不良老年論を試みること左の如し。

不良少年不良老年

▲不良少年の原因

近頃の所謂不良少年に對し、不良青年、不良壯年、不良老年の別を立てゝ論じたる浮田和民君の說は、頗る我輩の意を得たものである。所謂不良とは、少年に限らず總べて道德上、品行上より言ふ所の不良であるのは勿論であるが、先づその不良少年に就て言へば、その原因は、遺傳と家庭の感化とにあることも亦言ふまでもないのぢや。而して、その遺傳にしても或る種類の病氣の如く遠い祖先より遺傳するものはなく。直接その父母より遺傳するものであつて、既に遺傳する位ゐであれば、その子が生れた後の家庭の感化も亦不良なるべきは、寧ろ當然のことゝ言ふべく。遺傳と惡感化と相待つて、何も知らぬ少年を、不良にと導き育てるのであるから耐つたものでない、不良ならさんとするも豈に得べけんやであるのぢや。而してさう云ふ不良少年は、どんな父母、如何なる家庭に最も多いかと云ふと、或る特種の職業に依つては、その父母の商賣、職業と云ふものが多少關係することもある。例へば、常に犯罪者を扱ひ、人民をいぢめる所の警察官とか。或は、義理も人情も構はぬ、強慾非道の高利貸とか。或は又、醜業を營む所の待合、料理屋と云ふやうな家の子に、不良少年が多いと云ふやうなこともあるであらうが。近頃新聞や何かで八釜しく言ふ所の不良少年は、社會の中流以上の相應の紳士の家にもある。而も皇室の藩屛、國民の儀表と云ふ肩書を持つて居る華族さんの家などにも、少なくないと云ふのは、全體どう云ふものであらう。

▲不良妻非賢母

それから又、不良少年の少し年を取つた、先づ中學から大學程度位ゐまでの不良青年ぢや。是れは、唯遺傳と惡家庭の感化を受けた不良少年の年を取つたものばかりでなく。少年の時は左ほどでもないのが、青年になつてから惡友などに誘惑されて、その仲間に引込まれ。或は、耽溺小說や俗惡文學などの感化を受けて自から耽溺し。或は、社會の種々なる惡風俗に感化されたのもあるであらうが、その多くは、不良少年の年を經て、その不良の方に發達したものであつて。詰まり、少年以來の遺傳と家庭の惡感化とに加ふるに、惡友の誘惑、惡俗、惡文學の感化を受けたものに外ならぬのであらう。而して、不良青年も亦不良少年と同じく、中流以上の家庭に頗る多い。何々團、何々義團など稱して、隊伍を組んで市中を押し歩くものゝ中には矢張り華族などの子弟も少なくないさうである。さう云ふ子弟を出す所の家庭は、抑どんな家庭であらう。

その中には、母の方の良くないのもあるであらう、良妻賢母どころでなく、まるで教育も素養もない、妾あがり、藝娼妓あがり、醜業婦あがりのものもあるであらう。或は、前章に記したるが如き、役者買ひをする古き女、女郎買ひをする新らしき女のやうなものもあるであらう。甚だしきは妻妾同棲、家内の風波の絕えざるものもあるであらう。が、その多くは、畢竟、その父たるものゝ不品行、不行跡に出づるものである。而してその不品行、不行跡の中には、內妾又は外妾を蓄へ、或は女中、仲働きに手を附けるなど、家庭に於ての亂行もなきにあらざれど、その大多數、中流以上の階級に於て殆ど一般普通のものは、我輩の所謂お客道に耽溺するものであるのぢや。

▲不良老年は元老

少年や青年が、不品行を働き、猥褻な行爲をなし、不德義な所作をすれば、之を稱して不良少年、不良青年と云ふが、既に壯年となり、社會に獨立の出來る身分、年輩のものが、お客道の研鑽、鍊磨に努力すれば之を稱して才子と云ひ、働き物と云ひ、腕きゝと云ひ、傑物と云ひ、大に世に用ひらるゝのぢや。而して、壯年を過ぎて老年となり、頽齡に及んで尙ほお客道より隱退せず、死に至るまで實踐、躬行、その道の指導、奬勵に努むるものをば、世之を呼んで成功者と云ひ、

若年寄と云ひ、中老と云ひ。準元老と云ひ、元老、元勲と云ひ、御前と云ひ、殿様と云ひ、之を尊重、崇拜するのである。少年たる凸坊や凹さんの眼から見ると大人たる壯年、老年ぐらゐ、偏頗な、依怙な、壓制な我儘な、手前勝手なものはないのぢや。

我輩はこゝに廣言、斷言する、今の政界、實業界の元老、元勲たるものに、故福澤先生の所謂獨立自尊の意義にかなふものゝ、殆ご一人もなきことを。而して當世紳士たるもの、即ち我輩が第一章以來、章を重ねて述べ來つた所の所謂お客道に耽溺せる所の當世紳士に、品行、道德の上よりして、不良壯年、不良老年たらざるものゝ殆ご絶無なることを、併せてこゝに廣言斷言するに憚からぬのである。それ此の如くに、不良壯年、不良老年は社會の要素をなして居ながら、一方には不良少年、不良青年の矯正、改悛、絶滅を期せんとするのは。恰も、自分たちが酔つてたかつて、誘惑、脅威、壓迫して、藝者や女優を墮落、腐敗させて置いて、そして一方に神聖なる藝術家、清淨無垢の女伶人の出でんことを望むやうなもので、今や地平線下に沒せんとする夕陽を、扇の力で呼び返さんとする淨海入道を、明治大正式でやらうとするものと言はればなるまい。活動寫眞のジゴマは。警察の命令を以て禁止し得べしと雖も、この活きたるお客道のジゴマを何とかするにあらざれば、よし家に鼠、世に泥坊の種の盡る時はあるとも、不良少年と不良青年との跡を絶つことはなからう。

▲元老は即元兇

それから又、この元老、一名不良老年なるもの、殊に政界の元勲、元老、準元老の中には、品行、道德の上のみならず、一國の政治の上に於ても、藩閥、官僚の餘威を振ひ、世界の大勢、拒まんとしても拒むべからざる立憲政體に妨碍を加へ、一日にても永く天下の政權を私せんとするものゝあると云ふのは、かた〳〵以て言語道斷の次第であつて、彼等は、此方面よりするも到底不良老年たるを免れざるものであるのぢや。而して、我輩の所謂お客亡國論が、亡國論の本家、家元なりとすれば、その亡國の元兇たるもの、世の不良少年、不良青年、不良老年の、不良の元祖たる所の元兇は即ち元老、元勲なるものであると言つても、失敬、無禮ではござるまい。

そこで。何とかして、出來るものならば、先づこの元老と云ふ者から改悛、悔悟せしめて、片脚のまだ娑婆に引掛つて居る間に、眞人間となつて貰ひたいものだが、元老には元老相應の孔子さまの語を以て言へば朽木は雕るべからず、糞土の牆は杇るべからずぢや。その病ひ既に膏肓に入つては、お醫者も聽診器を投ぐるの外はない。彼等は、彼等自身、精力消え、馬力盡きて、その兩脚を棺桶に入るゝの時を待つの外に、ごう仕やうもないのぢや。と諦めをつけて、まだ老年の感化。誘惑にかゝらぬものは言ふまでもなく、既に多少その指導、薫陶を受けた壯年。及びまだ老年との感化、薫陶を受けざる、不良でない青年諸君。イヤ、男子の壯年、青年諸君のみならず。まだお客道の塵埃りに汚されざる清淨無垢の淑女、令孃諸君は。國家の未來、前途を、その双肩に荷ふて居ると云ふ、重大の責任のあることをお忘れなく。彼の不良壯年、不良老年どもを横目でなく、正面から睨み付けて、彼等に頓着せず、自營自治、而して自立自衞、眞の獨立自尊を貫かねばならぬのぢや。是れからの青年諸君は、是れくらゐの覺悟、抱負がなければ、やりきれるものでない我輩は、お客亡國の境界を脱して、我帝國の進運を、今より更に幾倍せんことを、滿天下の青年諸君と、不良壯年ならぬ少數の壯年諸君に期待するのである。諸君幸に國家の爲めに、自愛努力せられよ。と、こゝまで言つて置けば、不良壯年も、不良老年も、多少は省みる所がありさうなものぢやて。

ちよしや著者は多分福澤先生門下の一人と見えて、今日風教の頽廢を見るにつけても、故人追懷の情に堪へず、「福澤先生をして、尚存世ならしめば今頃は何となさるであらう」と大崎本願寺境内に於ける先生の墓石に對する感慨を語り、三田の出身者、又三田の學閥に非ものまでが陸々としてお客道の跋扈を極めて居るを嘆き、先生が如何に熱心に德育、品行、士人の處世、男女の交際等道德の方面に心を注がれしか、殊に晩年に及んでは益々男子の醜行を攻撃し「氣の毒ながら乃公存命の間は世の不品行者流を追撃して已まざるべし」と嗣子一太郎氏に語り、又先生の大患漸く峠を越えて尚ほ半醒半眠の間にありし時、頻りに獨語する處を聞けば、そは男子の不品行論でありし事を曰ひ、先生逝いて十餘年の今日男子の品行は先生存生中の比ではない、のに、世間の道德家、宗教家の注意をさへ引かぬ迄に墮落腐敗を嘆き、斯くていよ〳〵結論に達した。

社會の男女に對する註文

▲お客道の撲滅策

以上章を重ねて、述べ去り論じ來つた所を綜合して我輩の意見を約言すれば。我輩の所謂お客道の跋扈、跳梁と云ふものを、今の儘にして置いては、一國の元氣を衰耗して、國運の進歩を遲鈍ならしむるばかりでなく。遂には忌ま〳〵しき亡國の兆徴をも呈せぬとは云へぬ。イヤ既にその徴候を現はして居る今日であるだからして、晩蒔きながら一日一刻も早く、之を打破撲滅するの手段方法を講ぜればならぬ。而して、それはどうすれば可いかと云ふに、四十年來の研鑽、錬磨に成り。帝國の首都たる東京のみならず、東京に次ぐ都市は勿論、全國一般の町々村々にまで遍ねく行き渡つた所のお客道を、一朝一夕に撲滅するのは、不可能の事であらうが。不可能ぢや、出來るもんぢやアないと云つて、抛つて置いては尚ほ更ら出來ない。そこで我輩の註文は、第一、爲政當局者に對し。第二、社會の男子に對し。第三、社會の女子に對し。第四、男女兩性に對し。第五、藝者に對し。それ〳〵下記の如き條件を提出して、着々之を實行して貰ひたいのである。

▲第一　爲政當局者に對する注文

待合、船宿、貸席(眞の席貸し營業は此限にあらず)及び準待合たる料理屋の營業を斷然禁止し。賣婬藝者を片端しから處罰し。一度にても賣淫をなしたる藝者及び賣淫宿をなしたる料理屋の主人には、再びその營業を許さゞる事。而して、藝を以て立つ藝者と雖も、從來の如く褄を取り、或は箱屋を連れて戸外を歩くことを嚴禁する事。又賣淫の女優も、男役者も、藝者處罰の例に依るは勿論たるべし。

此の如くに嚴重に之を處罰、禁止した處で、法網をくぐり、役人の目を偸んで、後から後から湧いて出る賣窟、醜業婦は、なか〳〵絶滅と云ふ譯には行くまいが。かくすれば、少なくとも、公然看板をかけて、風俗を壞亂する賣窟、即ち待合、準待合と云ふものは無くなつて、表面の體裁だけでも飾ることが出來。而して、當世紳士も亦公々然賣窟に出入せざることゝなれば、お客道の勢力を殺ぐに足るのである。が併し、女將勢力、元老の壓迫が強くして、微々たる當局の力に及ばぬと云ふのならば、我々は、それを實行することの出來るやうな、有力なる内閣の出現を待つの外はない。而して若しその實行の出來る内閣ならば、他に多少の非立憲的行動はあつても、我々は寧ろそれを我慢せればならぬと云ふものぢや。

▲第二　社會の男子に對する注文

同じ社會の男子と云つても、既にお客道に感染、墮落した所の不良老年、不良壯年、不良青年に對しては一刻も早くその悔悟、改悛を望むの外はない。而してその中に就いて、不良青年、不良壯年に至るまでは、尚ほ改悛の望みなきにあらざれど、不良老年に至つては、最早や手の著けやうはない。是れは勝手に任せて煩悶の中に斃死するか、或はその子孫の爲めの好々爺となつてクタバるを待つとして。さて未だ不良の肩書を持たぬ、未來の紳士たるべき青年諸君、及び極めて少數の不良ならざる壯年諸君に向つては、我輩は最も多大の註文をせればならぬ。何となれば、我帝國の運命は、一に繫つて、諸君の双肩にあるからであるのぢや。

古い言葉だが、憲法發布、國會開設後、もう何年になつて居ますか。然るに、我政治の舞臺は、何年前の舊劇を繰返して居るのであるか。明治の代も四十五年を重ねたる後の大正の新政となりて、その初舞臺、序幕に於て、尚ほ軍人の跋扈、閥族の跳梁を見ると云ふのは、抑々何の因果と云ふものであらう。然り、我輩は之を因果と云ふ。かゝる果が生じたその因は何にあるかと云ふと、大正元年の年末に、歌舞伎座で開かれた憲政擁護會と云ふ、明治二十何年頃にでも開かれさうな會合に於て、犬養君の言つた通り、軍人の跳梁も閥族の跋扈も、何も軍人、閥族が強いのでも、豪いのでもないのぢや。詰まり、彼等をして、今頃かく跋扈、跳梁させる所の政黨に意氣地がないのぢや。議員に氣骨、元氣と云ふものがないのぢや。も一つ詮じ詰むれば、國民が間拔けなのぢや。お人善しなのぢや。が、犬養君も、その一を知つてまだその二を知らぬ、イヤその二三を知つて、而もその十を知らぬのぢや。即ち天下の大政黨たる政友會が、肝膽相照だの、情意投合だの、妥協だのと、我輩の所謂陰險なる待合政略に引懸つてグズ〳〵して居たのは、何の爲めであるかと云ふと。その首領以下、陣笠に至るまでの殆ど全黨員が、お客道に耽溺して、元氣銷沈、因循姑息、唯一日も早く政權に有り附かんことを望んで居たからであるのぢや。而して、斯る意氣地のない、眠つたような政黨が、天下の大政黨として勢力を占めて居ると云ふの

は、抑々我國民の大多數が、矢張り同じようにお客道に墮落して居るからであるのぢや。お客道に耽溺、墮落した先輩、老人、中老輩に打任せて置いては、到底革新の出來るものではない。そこでぢや、この當てにならぬものを當てにせずに、未來の紳士諸君、現在の青年、まだお客道に墮落せざる青年諸君に對して、大正の維新の大事業を囑望せねばならぬのぢや。イヤ時代がその大事業を、青年諸君に要求するのぢやない、青年諸君は自から進んで之に當らねばならぬのぢや。

佛蘭西の大革命は、青年の事業であつた。亞米利加の奴隷廢止は、青年の仕事であつたではないか。

▲第三　社會の女子に對する註文

女子にも亦少年、青年、壯年、老年の區別はあるが、その少女たる時は、その家庭の教養を受くるの外なしと雖も。既に青年時代となれる令孃、即ち未來の紳士に對する、未來の淑女たるべきものに向つては、男子の青年に望むと同じく、最も多大なる要求をせねばならぬ。即ち我帝國の運命を、その半分、少なくとも三分の一くらいは、その双肩に背負ふの覺悟をして貰いたいのである。

が併し、女子は獨立獨行と云ふ譯には行かぬ(それは男子も同じではあるが)多くは他に嫁せねばならぬのは、言ふまでもない。されば、他に嫁すると、婿養子を貰ふとを問はず、その配偶たる男子を撰擇するに當りては、如何なる成金、金持、門閥家、權勢家、若くは才子、好男子たりと雖も、苟くもお客道に耽溺したるものは、排斥せねばならぬ。よし兩親、其他の尊親族が何と言はうが、如何なるお爲めごかしを以て說き勸めようが、斷々乎として極力之を排斥して應せず、金や、身分や、爵位勳功や、口前の巧い當世才子や、顏のノッペリとした好男子などには目もくれず。どんな身分、職業の者たるに頓着せず、唯人格高く、氣品卑しからざる、眞の獨立自尊の貫ける人物を選ばねばならぬ。若し然らずして、虛榮の一點張りに、金力、權力、家柄などゝ結婚するに於ては、忽ちにして獸類以上の侮辱を受け、その身には忌はしき病毒まで感染されて、悔恨、悲哀の中に、その一生を終らねばならぬと覺悟すべしぢや。殷鑑遠からず、その實例は、現在到る處の家庭の發見さるゝであらう。

次に又、既に結婚したる夫人、奧さまとなつても、その夫に對し、舊女大學流の屈辱一點張りの女道を守り、男子の手前勝手ばかり考へた、所謂良妻良母主義とか云ふものに拘泥すべきでない。その夫たるものが若し宴會と稱し待合に行けば、そは交際上の必要に出でたるにあらずして、醜業婦と對座の宴會なりと心得べく。又倶樂部、若くは料理屋の宴會と雖も、夜十時を過ぐるときは、二次會、三次會に赴きたるものと認定して、夫に對し遠慮なく詰問、諫言すべきものなり。而して、夜の宴會のみに注意して、當世紳士の隱れ遊びの秘中の秘たる、白晝の魔窟道入りに油斷してはなるまい。而して、その夫たるものが、眞の良人でなく、お客道に耽溺した不良人であつても、又その家が鄙陋亂脈なる家庭であつても、斯る夫、斯る家に緣附きたるは、詰まり自分の愚見違ひか、さもなければ尊親族たるものゝ不心得に因れるものなれば、今更ら致し方なしと諦め。家庭城は家庭城として、飽くまで守護警衛し、而してその夫に對しては有らゆる手段方法を盡くして、その獸行を止めさせねばならぬ。斯くて如何にしても、夫が之を思ひ止まらざるに於ては、已むを得ず、彼れを殺し自から死するも、あながちに之を不可なりとはせぬ。とは云へ、我儘強ひてそれをお勸めはせぬ。若し如何にしても改悛の望みなき、獸類同樣のものと認定か附けば、思ひ切つて離婚するの外に取るべきの道はあるまい。要するに、夫の獸行に默從するは、離婚、自殺よりも、更に甚だしき女子の大恥辱と心得ねばならぬ。而して、斯る恥辱を受けまいとする最大良法は、前に言つて配偶の撰擇にあるのは、勿論の事ぢや。

それから又、一般の淑女たるものは、唯その家庭に蟄伏、籠城して箱入り娘たり、良妻賢母たるばかりでなく。男子の不品行、お客道の流行、蔓延に就て、その矯正、撲滅の方法を講じ、突擊的態度を取らればならぬ。男尊女卑の風習は、男子に取つては至極好都合なれば、之を男子に打任せて置いては、いつになつても、自から兜を脫いで來るものではないのぢや。そこで、女子は女子として、有力なる團體を作り。一致協力、その團體の力を以て、常に男子側の壓迫に對抗して、自からその位置を高め、女德を全うするの工夫をせねばならぬ。現在の婦人矯風會の如きは頗る可なりだが、尚ほ一層その勢力を擴張して、女子の弊習を矯むるばかりでなく、男子社會の惡風矯正、殊にお客道の撲滅に最も力を盡さねばなるまい。而して年々議會に建議、請願する所の有婦姦處罰問題の如きは、獸行男子に對する示威運動としても、頗る適當のものなれば、更に大々的運動をなし。熱心に、猛烈に、間斷なく運動して。獸行男子の眼を覺まさんことを望むのぢや。

(完)



學生航海中に婦人を救ふ

左は會員郷司惜司君が、遊學の爲め渡英航海中の出來事に就て其友高尾君への通信の一節である。

▲(前略)香港で、彼の江戸ッ子君の勸めで、テーヴイホテルと云ふ日本人の經營する家に泊つた。夜日本婦人を主として白人土人を加へた醜業町を視察した。實に其勢力の大なるを見るにつけて情なく思つた。淺ましく堪へられない感がした。

▲此處で一つの出來事を書く事とする。門司を出帆する時に船中に男や中婆につれられた幾組かの若い女(主に長崎のもの、其の他は附近の縣及阪神地方のもの)があつた。總數二十名程あつた、上海で下船したもの、上海メールで長崎から來て此船に乘込んだ者もあつたので乘合はした全體では二十五名位あつた。而して其の全くが醜業に行くのだ。或ものは自ら願つて出かけたらしいが、大多數はかどわかされたのだ。故郷より伴れ出す方法は種々ある。併し皆利慾と虚榮とにつけ込んで居る。或は東京に華族の宅に見習ひに行くとか、外國に行けば忽ちにして金が出來るとか、自分の妻になれとか、個々の缺點を利用するのである。而して其目的地に入る迄に多くは前途を豫想する恐怖に、捨鉢になつて寧ろ斯る生活を希ふ者となり、從つて云ふに云はれぬ醜態を船中にて既に演ずるのである。

▲彼等の中二人の少女は上海にて領事の手にて送還せられた。僕はどうかしてやりたいと思つて、先づその道に委しい江戸ッ子君に事情を聞いた。相談もした。併し調べた結果彼等をつれて居る人間が生命知らずと來て居るのでウッかり出來ぬと思つたのでよしにした。他の重大な理由は彼等を救濟する以上は今後何うしてやると云ふ實際の問題が起る、彼等は國民教育を受けたか受けない位の程度である。こんな商賣の外獨立自活の途はないのである。若し親が承知で來たとするならば今解放されて一文なしで歸れば、親よりも叱責されるか知れぬ。勿論親にも子にも道德などの觀念はない。夫れも若し彼等が此を以て充分に利益を得ればまだしも今の所では百中の一か千中の數人の外金を返り得るものはない。他は口入誘拐者乃至は樓主の腹を肥やして己は三十前後にして死し或は死す可く放り出されるのである。

▲そこで之を救濟するに多くの方法もあらう、當座の事としては救世軍の事業など大に有力と思ふが、永遠の策としては僕は女子教育方針内容の變化に俟たねばならぬと思ふ、良妻賢母主義を捨てねばならぬ。新しい言葉で云へば女子が醒めねばならぬ。而して醒めたる女とは男子より獨立した者でなくてはならぬ。その思想より生活の問題まで彼は一個の完備せる人でなくてはならぬ、而して彼と男子との相違は其分業に於てゞある。決して主從の相違たる可からず、共關係は相互的、共同生活は全然 Mutual help のためでなくてはならぬ。故に僕をして婦女子を救ふの案を建白せしめば彼等を生活と思想との二方面に獨立せしめよ、今後の女子教育を此二方面に有效なるものたらしめよ、と叫ぶのである。此一事實を捉へて此に論據の架空ならざるを證せしめよ。

▲神戸より此船に乘り込んだ夫婦者らし

き男女があつた、男は三十四五以上、女は二十六七である。何うも此二人が時々公衆の面前で夫婦喧嘩を始める、而かもよく事情を聞くと內緣の妻である。主人は寫眞師であつた、此女は產婆と看護婦とをして居たが三年前に暫く同棲して居た。此男が香港より歸つて妻を定めてつれて行く必要より、一度別れた彼女をすゝめた。然し應じなかつた。そこで止むなく他に女を探して共に南洋に出發した然るにこの女は橫濱より神戶迄の船中にて此男に愛想をつかして逃てしまつた。仕方がないので再び東京に引返して先の女の恩人の手を經て義理と利を以て彼女を口說落した。

▲然るに乘船後何うも男が而かも色情狂で女を虐待し、剩へ女を船に置いて碇泊中自分は惡所へ通ふ。而かも女には月給も澤山とれると云つたのが三分の一位で、香港附近の日本人の多き處で、女にも產婆をさせろ、收入も多いなど云つて居たのが香港、シンガポールも過ぎてヒナンに上陸すると云ふ事が明白になり、中島の小都會に行くと分つては日本人の居る數も少なく、產婆の需要皆無なる事明白となり、時としては女を脅迫するに、男子と話をすれば元の身體では歸さぬとか、賣飛すとか云ふ。

▲女は香港着の前々夜二度迄入水せんと覺悟したが漸く思ひ止つて居たのであつた。僕がかの女の事を委しく聞き込んだのは丁度其頃の事であつた。色々考へて何うかしてやりたいがウツカリ出來ぬと云ふのは、上陸して男とは手を切つても、この邊のしたゝかものゝ手にかけては駄目である。シンガポールでは之は何うしても本人をして男と爭はしむるより外に他人の力では駄目だと思ふに至つた、そこでピナン着の前夜、高商連中に打合せをした。實は彼等も何うかしたいと思つては居たが、夫れ迄僕は多數に事が洩れてはと思つたから相談はしなかつたが、彼等が眞面目に心配してるのを見て、僕が自ら進んで今日迄の計畫を云ひ出した僕は現に船長にも豫め相談した。

▲そこで計畫は成つて翌未明、女の意志を聞いた上、公然彼男と共に上陸する事を拒んで保護を船長に請ふ事とせよと助言した。時は來た、船客は各自ランチへと急いだ、女は男に反抗して上陸を肯せぬ、船員が爭へる二人を事務長室につれて行つた。僕は事務長へ僕等が取調べたいけの事實を話した。遂に二人は事務長と共に船長の面前に於て事を決した。女は勝つて解放せられた。男が泣寢入をやつたのは此男の可なり正直な事を證しては居る。併しこの男について上陸したならば、女の運命は男と共にあるも、男を離るゝも危險なる事は略明白である。

▲今彼女は保護せられつゝコロンボに向つて居る、彼の港で摺れ違ふ宮崎丸に託して返す事となる。勿論吾輩は個人として一等運轉士瀨川直兄に保護をたのむ事となつて居る。此に考ふべきは彼女が勝ち得たのは、第一彼女に獨立の精神と同時に、それ丈けの實力を有して居る爲である。而して夫れが原因は之に適する丈の教育のお陰である。勿論第二に此場合にも他人の助力を要した事も事實である。併し若し彼女の精神教育にして、今一步確乎たるものあらせば這麼事件は恐らく起らなかつたであらう、道念低く、信仰なき彼女にして然り、百尺竿頭一步を進むれば事足るのではあるまいか。

▲そこで我國の女子教育をして、以上二つの原則を有して其實行を見るならば、我國の社會の內容を一變し得る事は疑はない。而して斯る女に育てられた第二第三の國民の內容は大に趣を異にし、遙に高等堅實なるものとなるに違ひない。

不貞潔の行が生みし人生の悲劇

△特に公娼の禍害に注意せよ

角谷和市稿

大正二年一月中、東京の新聞紙上に於て報道せられしもののみ、此他同種類の事件幾何あるべきやは、想像するだに戰慄に堪へざるなり。

時日	住所氏名	職業	原因	結果	事情
四	淺草北淸島町加賀方 野本勝次郎（二一）	魚商雇人	吉原の公娼に浮れ	自殺	昨年十一月を初回に、吉原塚本樓娼妓小櫻と馴染を重れしが、小櫻は勝次郎の意氣地なきに愛想をつかし、冷遇せしより、その薄情を怨み、小櫻の寢息を窺ひ短刀を以て小櫻の咽喉部に切りつけしかば、小櫻は廊下へ飛び出し救を求めしが今はこれ迄なりと我と我が咽喉部を二ヶ所まで突きしも死にきれず苦悶。
五	深川本村町 長谷川泰藏（二〇）	肉屋	淺草の白首に浮れ	友人に殺されんとす	友人山本勘藏と白首を相手に酒食中、女の事より喧嘩を初め、散々に甚藏を毆打したるより、甚藏のために殺されんとす。
同	山本甚藏（廿三）	人足	白首に遊蕩	喧嘩して友人を殺さんとす	女の事より喧嘩を初め散々に毆打されたるを遺恨に思ひ、附近の破落漢を語ひ友人泰藏の出で來るを待受け突然混棒にて同人の頭部面部を亂打す。
七	名古屋市東區疊町 木村均（二三）	銀行帳簿係	藝妓に溺れ	行金を横領し捕縛收監	明治銀行給仕より仕上げ昨今は手形割引帳簿係とまで昇進したるが昨年十一月頃より放蕩を始め、藝妓壽々八（一九）に現を抜かしたる結果惡心を起し、十二月十七日遂に帳簿を誤魔化し行金五千三百餘圓を横領、壽々八を落籍し、大和笠置溫泉に潛伏中三日捕へられ名古屋千種監獄に收監さる。
同	藤井亨（二七）	洋服裁縫職	姦通	殺人	曾て旭川步兵廿八聯隊に入營し上等兵にまで進みし同人は四十二年除隊後、親方馬瀨富太郎方同居中、富太郎の女房れんと姦通し發覺せるため昨年五月暇を出されたり。同人はこれを遺恨に思ひ一家の鏖殺を企て、馬瀨方に到りれんを斬らんとしたるも果さず、戸外に飛び出す富太郎に斬つてかゝり、重傷を負はせ、この體を見て、實父を助けんと亨の足にからみつきたるおせいを邪魔するなと後ざまに突きて即死せしむ。
同	馬瀨れん（四二）	女髮結	姦通	夫を斬られ娘を殺さる	同上
同	馬瀨れん實子 山本せい（一四）		母の不義のため	斬殺さる	同上せいは十二歳の時京橋區山城町藝妓業新福家の養女となり六十圓の前借、六年の年季にて未だ下地子なるが、暇を貰ひて母と共に活動寫眞に行かんとて實家に歸りしばがりのところ、父を助けんとして斬り殺さる。

同	茨城縣東茨城郡長岡村百太郎長男 柳田勇藏(一九)	郵便局事務員	吉原の公娼に浮れ	窃盜捕縛	眉目秀麗なるが崇となり種々の方面に金錢を濫費せるより、僅かの俸給にては迚も思ふ樣にならず、常に借金に首も廻らぬ始末なりしが、去年十二月十九日同局にて保管中の現金五百八十圓を拐帶して東京へ逃走し五日夜吉原角海老に登樓して小式部を敵娼にして藝妓を上げて底拔騷をなし居りしを、日本堤署の刑事に押へられ七日檢事局送り、
八	川田清吉(二八)	左官	強姦	強盜捕縛	埼玉縣大宮町にて某家の妻女を強姦し、金五圓を奪へるのみか其後も右の女と嫌忌を重ぬるを數回に及び猶又下谷三輪町二十四の空家へ某女を連込み二日間監禁して之を強姦せし外各所にて強盜強姦を働き取押へらる。
八	小石川指ヶ谷町 鈴木辰次(三二)	鍛冶職	妻の姦通	女房を斬る	商賣失敗のため一時夫婦別れをなし女房おりう(三一)を埼玉縣の料理店に酌婦に住み込ませ、辰次は職工となりて働く内、おりうは情夫をこしらへたるを感づきナイフにて斬りつけ重傷を負はせたり、
九	茨城縣東茨城町磯濱町 加藤四方吉(二四)	商會配達人	洲崎遊廓の公娼に浮れ	強盜捕縛	一昨年二月上京、京橋區佛馬町、清涼飲料水製造業九重商會の配達に雇はれ日給四十錢を貰ひ居たるが昨年六月頃より洲崎遊廓の某樓にしげく通ひたる結果借金に責められて遂に惡心を起し、女郎買に行くとて商會を出で千葉縣香取郡佐原町乾物商並木卒太郎方の土藏を掘り一尺五寸位の錆鎗を携帶し卒太郎夫婦の寢間に至り強盜だ起きて金を出せと例の如く文句を並べ紙幣銀銅貨取交ぜ金十一圓を強奪し素知らぬ顏にて歸宅せるが、嚴探の末逮捕
同	麻布西町一 大越作藏(二九)	魚商雇人	放蕩つかひ込み	自殺	放蕩のため主家の掛先金十七圓餘を着腹し、その金にて心のまゝに遊び居たる事主人に知れ出刄庖丁にて咽喉を刺す、
同	秋田縣仙北郡久市鑛山 深見新太郎(二一)	坑夫	私通	殺人	本月二日より同所鑛井ひさ(十七)と情を通じ居りしが三四日前新太郎は艷書を認め田塚富次(十八)なる者に託してひさに送らしめたるに此の富次も亦以前よりひさと關係し居る事とて新太郎の艷書をひさの眼前へ突付け、其の薄情を責めたるに、流石尻輕のひさも面目なき餘り、其儘艷書を新太郎に突戻したるより、新太郎は大いに憤慨し、七日午前八時頃附近の居酒屋にて強か酒を呷りたる上ひさの居宅に抵り隱し持たる五寸餘の匕首を閃かしてひさを滅茶々々に斬付けて、其場に即死せしめ自分は其儘同所駐在所に自首したり、
同	同 窪井ヒサ(一七)		同	殺害さる	同上
同	本所林町一本製糖會社員吉松長男 加藤一太郎(二二)		父の不品行から	自殺未遂	父吉松が之れ迄妾數人を取替へたる許りか京橋區加賀町一番地土田ヨネ(廿八)と云ふを外妾として自分の一身上に付きては更に省みぬより前途を悲觀し石油一合を服用自殺を計る、
同	牛込區加賀町仁吉倅 福原末吉(二八)	大工	強姦	絞殺誘拐捕縛	横須賀市綠入町飲食店しほだ事伊久留方にて同家雇人八坂お秋(十八)を相手に飲食の末飲代五十錢を市不入斗三十五番芋商貞吉弟房次郎に貰ひ受くれとてお秋に附持を持たせ同道して立出で同夜八時頃人跡絶えたる練兵場に連れ出し俄に慾心を起し挑みたるも肯ぜざるより黑メリンス兵子帶にて同女を絞殺し默然を逃げたる上逃走し、東京に於ても淺草區田中町野田お敬(二三)を誘拐し三日間空家にて辱しめその他各所にて婦女誘拐強姦の惡事を働き檢事局へ送らる。
一二	神奈川大綱村 小澤お作(三〇)		實父と通ず	嬰兒を壓殺す	昨年母お咲が死亡したれば本人先より歸宅中實父仙太と情を通じ、因果の胤を宿し昨年十二月十日分娩したるを、仙太郎と共謀の上乳房を以て壓殺したるが、此程に至り同村駐在の船川巡査が探知し、本署に内報したるより、去九日鈴木警部仙太郎方に臨み、家宅搜索の結果、同家押入の奥より産襤褸に包み腐爛したる嬰兒の屍體を發見したるより、有無を言はせず仙太郎とお作を本署に拘引、

同	小澤仙太郎（七三）	農	實娘と通ず	同	同
一二	小石川音羽町三丁目 今關忠次郎（二八）	製本職人	洲崎遊廓の公娼に浮れ	窃盜	朋輩のインバネス代價十二圓を窃取せしを手始に外三ヶ所にて百五十餘圓の金品を盜み洲崎峰松樓の娼妓に浮かれる事發覺檢事局へ送らる、
同	赤坂區丹後町 近藤林藏（四二）		私通	情婦を斬る	情婦なる杉野かの（三九）を下谷不忍池畔に於て洋刀を持つて咽喉部外三ヶ所へ重輕傷を負はせ逃走、取押へらる、
同	岐阜縣不破郡垂井町 西川文平（七六）	時計商	實子の不孝放蕩より	實子を斬る	悴喜一郎（四一）が近頃放蕩に耽るより何時かは意見を加へんと思ひ居る矢先、去九日同町の料理店中島方に登樓し多々羅遊びをなし居るを聞き、連歸らんと同家に赴きしに却つて喜一郎に罵倒せられしより、一旦自宅に歸りて二尺餘の刀を持ちて中島方に取つて返へし、喜一郎の頭部に斬付け重傷を負はせたる騷ぎを所轄署にて知り、取調中なる喜一郎は流石に世間の手前を恥ぢ負傷せし儘何れへか逃走せり、
同	加藤勝太郎（二〇）	材木商雇人	十六から遊廓通ひ	主人の金を費消し取押へらる	豐多摩郡淀橋町字柏木三八材木商佐野卯吉方に幼少の時より雇はれ居たるが十六歲の時女郎買を覺え主人の金四百餘圓を費消して解雇され昨年足尾銅山の工夫となり居たるを十日紀尾井署の手に取押へられたり、
一七	數井淸吉（二九）	商會員	眞金町遊廓の公娼に浮れ	掛先金を橫領し捕縛さる	淸吉は東京の某商業學校卒業後日露戰役に從軍し、勳七等に叙されしも御下賜金の如きは悉く蕩費に注込み、昨年中同町雨宮勇次郎の次女お千代（二〇）を蕩し込みて小使を捲上居たるがお千代の嫉妬と共に同人を振捨て、眞金町遊廓永田樓の娼妓夕風（二三）に迷ひ、四方に不義理の借財嵩み遂に勤め先たる市内扇町一の三〇三雷商會より掛先金百五十圓を橫領して、妾を隱し芝白金三田二〇小洋商會に住込み居る事を此程壽町署にて探知し、十六日柿沼刑事出張捕縛したり、
一八	京橋月島 牛山甚吾（二六）	西洋洗濯業	洲崎遊廓の公娼に浮れ	殺人未遂	洲崎高橋樓の娼妓小照（二四）の許へ、昨年九月初回に四十一回通ひ十七日一圓五十錢の勘定が拂へず女に立替られよと色男振りしも左程に思はぬ小照は體よく斷りしに殺意を生じ女から貰ひし手拭にて咽喉を締め、自首、
同	千葉縣船橋町 牧野市太郎（三七）		吉原遊廓の公娼におぼれ	窃盜	麴町區山上方へ忍び入り衣類五點代價二十圓を窃取し、吉原寶來樓の娼妓名柳（一九）の許へ浮れし事發覺、檢事局へ送らる
同	群馬縣勢多郡大胡町 橫澤八百藏（二八）	書記	私通	情死	同町資産家の息子なるが騎兵第十三聯隊に入營し、四十四年七月より同町役場書記を拜命し、模範書記の稱ありしが、同町一旅館伊勢屋事前島瀧吉二女タマ（二二）と關係し、タマも一生懸命に戀焦れ居たりしが八百藏は父に其事を明し、同女と結婚することを申出でしも、物堅き父は宿屋の娘に目を吳れるなと意見したるより、今は是迄なりと兩人相携へて去る四日家出し、上京荏原郡大崎町字下大崎九六地先にて黑メリンスの兵兒帶搗色縮緬の帶揚とを撚合せて兩人の身體をシカと結へて鐵道自殺を遂ぐ
同	同縣同町 前島タマ（二二）	旅館の娘	私通	情死	同上
一九	淺草田町 草野淸作（二四）		吉原遊廓の公娼に浮れ	窃盜	本月四日夜京橋區待合小瀧方へ忍び入り、上等衣類四十九點代價五百七十圓を窃取せしを手始に、他二十ヶ所に二千九百九十餘圓を窃取し、吉原稻本樓の娼妓敷島の許に浮れ居る事發覺、取押へらる、
一九	茨城縣石塚 渡邊政四郎（四二）	水車業	妻の姦通	殺人未遂	十六日午後六時出先より歸宅し見ると妻お淺（三五）が隣家の橫山淸次郎（三五）を引入れ同衾し居たるより、政四郎は大に怒り、淸次郎と立廻りを爲しゐる所を、附近の桐原太助の仲裁にて一先づ鎭まり姦夫淸次郎は桐原へ引取られたるが、十七日午後六時政四郎は出刃庖丁を携へ、桐原に闖入し、淸次郎に斬付け、胸部に長さ一寸五分深さ二寸の重傷を負はせたる爲、其場にて逮捕されたり、

同	同妻　おあき(三五)		自己の不義	夫に殺人未遂の罪を犯さしむ	同上
同	同　横山清次郎(三五)		姦通	殺害せられんとす	同上
二〇	小石川久堅町　山岸おきぬ(三〇)	女中	主人と通じ	自殺	主人戸波親信(六三)は去る三十二年春妻お貞が死亡し、其後雇入れたる下女前記お喜佐に手を付け夫婦同樣に暮し居るうち、數年前姉を便りて上京したるお絹をも手に入れ、兩手に花と眺めゐたり、元來姉のお喜佐は戸主なる爲、妹お絹に養子を迎へ後を繼がさんとの考へあり、其れに親信と通じ居るを知りたれば、急に郷里に還さんと計り實母へ相談の爲め十六日郷里埼玉に歸りたる後にお絹は十七日午前五時頃同家裏隣りなる植物園々丁取締内山安次郎方井戸に投身したるを安次郎に救はれ親信に引渡し、親信は自分の寢室に擔ぎ込み蘇生せしめたるが、同三十分頃に至り一寸と勝手元に行きし隙にお絹は又もや床にありたる護身用の短刀を以て咽喉部を突刺し苦悶中親信が來りて仰天し、竹早町醫師土岐甲太郎を招きて診察せしめたる結果、氣管切斷しあるを發見したれば、更に順天堂病院の押川醫學士を招き應急手當を加へ同病院に入院せしめたるも遂に同夜九時四十分頃死亡したる事判明し、親信及びお絹の姉お喜佐兩人を拘引、
二〇	小石川久堅町　戸波親信(六三)	元銀行員	女中と通じ	自殺せしむ	同上
二一	京橋彌左衞門　紺野安貞(二六)	指物屋職人	品川及吉原遊廓の公娼に浮れ	竊盜捕縛	品川本宿貸座敷新成田樓の靜江(二〇)に夢中になり、金に窮したる末惡心を起し、四十三年中賊を働き捕縛され、昨年十月出獄して牛込區大久保百人町の出獄人濟修會に引取られ居る内、同會の金を盜んで逃走舊臘中京橋區木挽町高山𪜈店へ忍入り八百圓在中の手提金庫を竊取し、吉原越川樓にトリ娼妓若草に入れ揚げ居たりしが十九日同樓より立出る處を築地署の手に捕はる、
同	下谷池ノ端茅町　鈴木お末(二〇)	女中	私通	姙娠嬰兒殺し	下谷池ノ端茅町吉岡逓次郎方に奉公中主人の胤を宿し分娩、窒息死に至らしむ、
同	同上　吉岡逓次郎(　)		女中を姙娠させ	殺人罪を犯さしむ	同上
二二	武澤智常(四九)	足袋職	妻の姦通より	殺人未遂	自分の妻なりしお絲(四一)が姦夫彌太郎と同棲し長女お光(二〇)も彌太郎方へ遣入り込み全然歸宅せぬより益々怒り遂に姦夫姦婦を殺さんとして果さず、
	武澤いと(四一)		姦通	殺されんとす	同上
二三	淺草福井町　塚本小助(二九)		私娼に浮れ	竊盜	舊臘十日同區仲町二四古着商津幡藤太郎方へ忍入り新御召縮緬五反を竊取せり外其後諸所に竊盜を働き淺草公園銘酒店に浮れ居るを廿一日兩國公園にて捕れたり、
同	埼玉縣新倉村　山田長兵衞(三一)		新宿遊廓にて公娼に浮れ	竊盜	舊臘同村長島清助方より現金八十圓を竊取せるを手始に外十三箇所に三百四十圓を盜み内藤新宿貸座敷娼妓お作(二二)に浮れ居る事發覺し廿一日新宿署の手にて又も同樓に遊興中取押へらる、

二四	元名古屋三井銀行支店 四方郁（四六）	會計主任	竊盜	不正手形を發行、拘引さる、妻娼をなして、素行を亂さしめ妾を發狂せしむ	月給僅に四十圓なるに三人の妾を蓄へ、身分不相應の豪遊をなし、名古屋花柳界の大立物として知られ、且その日常生活の如きも贅を盡し、華族の如き邸宅に住み合計七十六萬圓の不正手形發行をせるも、七年間これを知るものなく昨年末やう〳〵發覺するに至れりなほ自己の有せる財產八千圓、妻の財產一萬圓を有す、但しこれ皆家財なり。而して其妻また、役者買に贅をなし、二人の娼もこれに倣ひ亂行云ふに忍びざるものあり、不正事件發覺するや、その妾一人は發狂せり、（二十三日公判）
同	臼井庄三郎（　）		放蕩	自殺	四方等と共謀せし不正手形事件の發覺するや藝妓桃太郎（十七）を伴ひ大阪に至りて女に迫り無理情死を迫まり。ピストルを以て自殺す、
同	桃太郎（一九）	藝妓	不正銀行員と關係し	自殺	同上
二五	日本橋區箱崎町四ノ一 伊藤權作（三一）	豆腐賣子	吉原遊廓に公娼より黴毒を感染し	少女を姦し黴毒を感染せしむ	日露戰役の際第二師團一等卒として出征し、勳八等白色桐葉章を拜受せる者なるが、前年前記兒玉方に雇はれ中三月上旬より下旬に亙り、吉原にて黴毒を背負ひしにも拘らず、同家の子守女小坂金太郎の娘ふさ（十三）を三回姦淫し黴毒を感染せしめ懲役一年半を求刑さる
二七	北品川道太郎妻 十見山フサ（二三）		姦通	逃走取押へらる	フサは同居人なる群馬縣人土谷勘藏（二六）に昨年十月より情を通じ居たるが、兩人は此に相談の上長野縣へ逃走せんと廿六日上野停車場にて切符を買ひ居る處を道太郎が追跡して兩人を取押へ上野署へ突き出さる、
同	同 土谷勘藏（二六）		同	同	同上
同	山形縣生れ 佐藤專五郎（二五）	雇印刷業	吉原の公娼に迷ひ	自殺未遂	印刷業を開始したるも放蕩のため失敗閉店、更に吉原に流連して無一物となり前非を悔ひ、父と情婦に遺書を認めて縊死を圖る、
二七	淺草千束町 並木まち（四三）		娘に賣淫をさせて梅毒に感染させ	遂に娘を殺す	娘ひさを銘酒屋榮屋へ仕込ませしに、ひさは梅毒にかゝつて榮屋を追出されしも覺束なき自宅治療に病勢は益々募るばかり、ひさは貧と病苦に堪へかねて殺してくれと再三迫るに、遂に細紐にて締殺し自首、
同	並木ひさ（一六）		賣淫婦となり	梅毒に感染し母に殺さる	同上
同	芝三田 和田フサ（五一）	青物商妻	姦通	竊盜犯	澁谷町字下澁谷五七ヨカ〳〵飴屋鈴木源次郎（卅八）に迷ひ一圓を與へて私通し、爾來媾曳を重ぬる內其費用に窮し、同月末迄に夫時藏の衣類其他家財道具類を持出し、源次郎に入れ揚たる爲め同家を放逐せられ其後は麻布廣尾町邊の木賃宿を泊り步き金に困りて惡心を起し竊盜、
二八	群馬縣室田町 伊藤信藏（二二）	牛乳配達	放蕩	竊盜犯	元日本大學生なりしも學資に窮し退學して牛乳配達をして生活し居りしが惡友に誘はれ放蕩に身を持崩し昨年十二月十五日小石川區富坂町の講道館へ柔術の稽古に赴き同館生徒の生地留太郎の銀側時計と衣類四點を盜み外數ケ所にて金品六圓餘を盜み押へらる、
二九	芝南佐久間町 總の家お玉（三六）	藝妓屋	役者狂ひ	自殺未遂	四十年二月頃日本橋區濱花町に玉の家といふ藝妓屋を開業し其後同區蠣殼町、元大坂町等にて藝妓屋を營業し居りしが役者狂ひの爲借財嵩み像て贔屓にして貰ひ居たる三井銀行社長三井高保氏を始め吳服商酒井三示辯護士清水有國氏等より巧に數萬圓を捲上げ市川栗二郞、同じく團昇等に入上げ居たり、然るに何時しか此事を三井氏始め其他の客筋に觀現されて金の出處が無なりしより更に相場師佐久間忠次郞より一萬餘圓を捲上げ我儘の有らん限りを盡し居たるが其後佐久間と衝突し身を匿せしに昨朝八時頃刑事と稱する一人の男佐久間の使ひなりとてお玉方に來りたればお玉は大いに驚き面會を拒みて其儘二階に上り白鞘の短刀にて咽喉を突く、

廓清會紀要

會報

▲名古屋に於ける運動

▲名古屋遊廓大火の報に接するや、廓清會本部に於ては直ちに益富理事を同地に派し同地の有志諸君と共に其善後策を議する所があつた。

▲先づ益富理事は廿四日の夜行列車で、名古屋に向ひ、中央美以教會牧師關澤義之助氏、實業家服部復輔氏、原田七郎氏、教役會々長吉川逸之助氏等を訪ねた。所が益富氏が先方に着かない前からして救世軍の竹內大尉の如きは何とか致したいものであるといふので、市の有志を訪ね意見を聞き廻つて居た時であつたので、同地では「渡りに舟」といふやうな譯で多大なる好意を以て迎へられた。

▲而して愈廿七日午後青年會館で之に就ての協議會が開かれ、益富氏はその會合に於て廓清會の沿革から現狀及其目的を述べ、公娼廢止問題の急務を說き、略ぼ一時間半に亙つて熱心に本會の主義主張を述べた。

▲而していよ〳〵具體的の運動に取りかゝらうとはしたが、今一度、廣く有志の同意を得て、充分に準備をして然る後にするがよからうといふので、更に明廿八日再び第二の協議會を開く事となつた。集まる者、組合教會の金子白夢氏、青年會の菊池知學氏、美普教會の武田駒吉氏、商業學校教諭山崎增次氏、牧師吉田米吉氏、佐野秀生氏、大島武比古氏、美普教會の水野重吉氏、同、近藤優氏、救世軍の竹內大尉、矯風會の廣瀨てふ子、服部夫人、宣教師ハミルトン監督(順序不同)其他數氏あつた。

▲而して其會に於て、基督教青年會、禁酒會、教役者會、矯風會等の各團體より各二人宛の實行委員を擧げ、愈具體的の運動に取りかゝる事となつて、益富氏は歸京したが、本日(九日)書記近藤氏の名を以て左の報道に接した。誠に愉快な次第である。

『謹啓、先般御來名の節は、當市廓清運動の爲一方ならぬ御心勞を煩し奉深謝候。一同今更の如く自己の責任の重大なるを感じ、其昔遊女の救濟に食を忘れ玉ひし主、今の世にゐまし玉はゞ、其僕等の可憐なる同胞姉妹に對し、血なく涙なきを如何ばかり憤り玉ふならむ乎と想へば何となく、吾儕從來の怠慢不實の罪を思ふて空恐しく感じ申候。此最も近き罹災者を救はずして所謂傳道牧會なるものゝ寧ろ滑稽事に不過事を痛切に覺え申候。神國發展の大障害たる此魔軍の根據を拔かずして帝國の教化を云々する近視眼的愚を今更の如く悟り申候、殊に小生の如きは年若き丈けそれ丈け先日の御講演に對し感銘の度も高く御話中幾度か肉躍り血湧き決死の覺悟もて此事に當らんと決意仕候、就ては本日豫定の通り第一回委員會開催左の條々決議仕候。

一、會場、市內第一の劇場(二千名定員)に交涉し、都合出來ざる時は第二の劇場(千五百)に交涉し、それに

ても都合附かぬ時は充分なる準備の上、中央美以教會堂を之れに當つる豫定（七八百名）

一、時日、廿六日前後、

一、費用一百圓也

一、委員長　關澤牧師　一、副委員長　ウイバー（矯風會長）　一、書記・近藤優

其他の諸委員もそれぞれ部署々々に依囑仕候。

要するに一同祈禱と努力とにより敵の本陣に大々的爆彈を投じ一泡吹かせんず意氣込に御座候。何卒朝夕の御祈禱に御憶へ被下度奉懇願候。

舊約ギデオンの精兵三百なる事も思ひ出され壯快の感禁じ難く候。先は取敢ず亂筆御通知旁々得貴意候云々』

願くは此計畫が神の祝福により偉大なる効果を奏するに至らんことを希望に堪へない。

▲東京に於ける大演說會

二月一日（土曜）午後六時神田青年會館に於て東京青年會土曜講演と合同にて公娼問題大演說會を開く、定刻前潮の寄するが如く詰めかけたる聽衆は忽にして滿員となり、入場を拒絕するの盛況を見た。先づ益富政助氏は起ちて青年諸君に告ぐと題し、名古屋遊廓燒失より同地に出張して重なる有志と會合したる顛末を述べ、それより、何故に色慾道樂をしてならぬかに就て縷說し、矢島楫子氏は政治上人心の動搖せる際此盛會を見たるを感謝し、本多貞子女史は茶碗と箸との例を擧げて、此眇たる器が一日に三度缺く可らざるものなる如く、國家の上にも斯かる例より免る能はずとて、巧みに廢娼論に移り、最後に『皆樣が茶碗と箸とを取る度に廢娼の事を思ふて下さい』と結び滿場の喝采を博し、第四席小崎弘道氏登壇、醜業者の待遇と題し各國に何か一つ二つづゝ必ず世界第一と稱するものありとて各國の例を擧げ來り、日本には醜業婦が世界第一なりと痛歎し、昨年十月英國下院に於て、醜業者は人間に非ず下等動物也との見地より之を笞刑とする刑法治罪法改正案の通過したる事を述べて、醜業者の排斥すべきを論じ、小崎千代子女史は簡單なる挨拶の後安福ちえ子孃のピヤノ伴奏にて讃美歌の獨唱をなして破るゝが如き拍手の裡に降壇、辯護士、西村勘之助氏は『法律學上の廢娼論』と題し、娼妓に關する法令が、憲法と內務省令と牴觸せるを述べ、住居移轉の自由を奪ふ不法を責め、政策としても鑑札を與へ稅金を課する愚を嗤ひ、監督の形式は社會の裡面に默許して隱密に取締るべき者なる事を說き、山室軍平氏は『赤裸々の事實を提供す』と題し、娼妓の悲慘なる生活を一々實例を擧げて聽衆の同情に訴へ、寺田四郎氏は『矛盾せる行政處分』と題し、洲崎の一娼妓が救世軍によつて廢業したるに對し、取締規則の條項に違反したるものとして二十日の拘留處分に處せんとしたる件より說き起して行政處分の矛盾を歎じ、最後に安部磯雄氏は『家族制度と公娼制度』と題し、我國の家族主義より說き起し、我民法改正の必要を述べ個人の尊重すべき所以を論じ家長の犧牲となり醜業を營む者多きを歎き、午後十時過閉會、來會者無慮千二百餘名、入會申込者五十三名に及びたり。

會員の奮鬪（來翰一束）

名古屋市桂島町　尾花新造氏

拜啓、前略貴會益々御隆盛の段奉賀候。愚生も曾員の末席を汚して早一年、何の功もなく打過ぎ候、然るに雜誌にも仰せられし通り吉原大火以後各地に火災又は海嘯等頻々として起り、近くは京都祇園の火災あり昨一月二十二日夜は當地旭廓も別紙新聞紙の報ずる如く大半燒失せしは痛快の極みに候。天はかくまで廓清事業を助け下さるかと思はれ候。されば貴會よりの此際當地重なる所に雜誌を一部づゝなりとも送付ありて、再興せざるやう運動せられては如何に候や、小生は業務多忙の爲未だ燒跡を視察せず、別紙新愛知新聞を送付候間、東都新聞にも掲載致さるべく候へ共御參考迄如斯に御座候

京都　風馳生氏

先日御内報申上置候京都市高瀨通五條下に都市町峰須賀正治郎外八名より出願の遊廓設置の件は、其後管轄七條警察署に於て精密なる調査進行中の處、五條橋上より一目にして見渡し得る場所なる等、凡ての狀況上斷じて許可すべき旨に非ずと遂に不許可と相成りたる趣、實に我々京都市民の幸福に御座候。右御通報迄

靜岡縣氣賀町　宮下新一氏

拜啓近來當地方の同年會及同級會なるものが只酒飲み會及社會の最下等に居る藝妓を以て神聖を汚し又昔の事を語りて樂しみ居りたり、然るに來月一日從來の陋醜を打破して諸會の模範となり、品性の修養を目的とする青年の同級會開かるゝ事に相成候につき報告仕候。其會には小生等（二十歲）の同級の會に有之候間小生等は素より猶一層町民廓清の爲め品性の修養の爲め大なる活動を致すべく候間何卒御力を與へられん事を希候

大阪　阿波長兵衛

大阪市西區九條町福富花子（二十歲）は、界隈に評判の孝行者にて、同人の實母は今を去る十九年前夫に死に別れ、纎弱な女の細腕に覺束なくも獨身を以て花子を養育し居たりしも遂に浮世の苦しさに堪へかねて實母某は花子と共に死を決し、既に水中に身を投ぜんとする所を現養父たる福富氏に救助せられ、花子は福富氏の養女となり、義弟妹四人と共に相當に生活し居たりしに、浮世の荒波は又もや福富家を襲ひ、失敗に失敗を重ね今日にては借財の爲め身の置場なく、養女花子は小學校卒業後其養父母を助けて勞業にいそしみ、世人の注目する所となりしが、遂に父母弟妹を窮地より救ひ出さんが爲め、自ら進まぬ事ながら恩義のきづなに餘儀なくも去十二月末松島町二丁目常盤樓へ身を沈め、五ケ年六百圓を前借して全部を養父母に渡して其苦境を救ひたるが、實母此事を聞き面會に

行き母子相擁して身の幸なきを歎いたといふ、あはれ同情に富む我廓清會員諸君、生活難の救濟と公娼制度の打破は刻下の急務といふべく、此の可憐なる少女の上に御同情あらん事を乞ふ。

福島縣相馬郡大野村　鈴木廣巳氏

拜啓、時下嚴寒の折柄貴會員益々御奮鬪被遊候段奉大賀候、降て小生之が爲不正民をして甦目なる國民たらしめんと常に貴會の御勢力の光明を景仰し、聊か之が御奮鬪の萬分の一にも數へ度き考に有之左の通り入會申込候間何卒正會員に御加入相成度願上候、追而入會の上は身命を捧げ之が奮鬪は覺悟の事に御座候

福井縣遠敷郡遠敷　板橋俊吉氏

前略、廓清事業の爲め小濱警察署長谷口弘氏に熱誠同意を求めたるに、賢明なる署長は廓清一讀の上全く同情せられ、今後有雜誌購讀を欲すとの意氣に有之候につき何卒正會員として同署長に今後引續き廓清御送付致され度此段御照介申上候や

下館町　三島德藏氏

（前略）當地廓清會仲々好評にて前途有望に有之候。當地方は公娼と申してはなけれ共蓄妾二百名以上酌婦二百數十名も群居し、風紀益々壞亂し、さながらソドムゴモラも斯くやあらんてふ慘狀にて、いよいよ風紀廓清運動の必要切迫仕候間、今回當地に支部設置いたし、名けて下館廓清會支部と稱し、左の如く委員選定仕候間、何卒御公認被成下度候

下館廓清會支部委員

三島德藏氏　岡本靜氏

飯泉善次郎氏　吉澤晟一郎氏
坂巻菊太郎氏　大久保新一郎氏
國分壽太郎氏　鈴木彦四郎氏
谷中三武氏　田中高吉氏
山中壽兵衛氏

支部發會式は來三月廿三日(日曜)夜開催いたし同時に廓清大演説會開催致候、先生と安部江原兩先生の御光臨切望仕候間何れ三月上旬小弟支部代表いたし改めて御願に上京可致候へども、此際大至急兩先生へ御交渉願度候、多分二十二日水戸にて、廿三日午後は眞岡にて、御講演を乞ひ同夜當地發會式と可相成かと存候、秋は十一月上旬に大隈伯、島田先生及先生御三人招聘の考に候、毎年春秋二季は定期廓清大運動の考に候、當地の飯泉、岡本諸氏は廓清會の爲め一騎當千の勇士にて非常に多忙なるにも不拘常に必死になりて活動し、會員募集の爲に熱心に遊説せられ、別紙の如き多數の第二回會員を得候、今後當町は無論各地方各町村内眞岡町地方へ廣く廓清遊説いたし、各地方に委員を設け大に會員募集の豫定に有之候、少くとも來る三月の發會式迄には健全なる會員三百名位は募集の豫定に有之、將來は當地に廓清會館設置いたし大々的に運動の方針に有之候。

横濱市戸部町四丁目　**倉本瀧十郎氏**

一書拜呈仕候、愚生儀貴會御組織以來廢娼運動の急務を感じ、廓清を購讀致度と存候處、天父の導により福音社店にて貴君に御面會を得、早速二册御送り被下難有拜讀致候。愚生は横濱停車場車夫を致居候へども我等勞働者唯一の快樂は酒に次は娼妓にて、貧困生活難の原因にして社會を害し家政を紊亂し、前途を誤るを見、我等如き群中にも廢娼論の奮起をなさしめ、社會改良の盡力仕度候。勞働者の覺醒は一大勢力と存候間御報告申上候

熊本市外黒髪村　**高山義三氏**

拜啓過日は御多忙の中にも拘らず、態々御面會下され且つ書籍迄も御投惠下され誠に恐縮に存じ候。車中にて早速拜讀致し候處言々句々頗る痛快、思はず拳を握り快哉を叫び申候。咄！人道の敵、此の惡制度を一日も早く打破して以て告ぐるなき女性、而も數萬の同胞を闇黒幽裡の活地獄より救ひ、國民の品性を高潔ならしめざるべからず候。されば神の祝福いやが上に廓清會の上に豐ならん事を祈る次第に御座候

和歌山市湊北町　**直川久之助氏**

拜啓、前略御免被下度候、先日は御親切をこめての古雜誌御送付被下奉感謝候。追而不肖も微力を振ひ貴會々員勸誘に日も猶足らざる有樣に候。先日當市の河野氏より貴會へ御請求致せし雜誌至急御送付被下度此段願上候。又當市に於ては憎む可き娼妓の如きものはなけれども、置娼問題の風説も少々有之候、吾等會員に取りては實に遺憾なる次第にて候。其れにつき當市に於ても貴會支部設置致し、吾等の青年會の事業とでも致し、今の折柄につき一層の努力を盡し以て豫防策を講じ度き計畫に御座候間、何卒此機を逸する事なく本會より御援助願上候、支部設置に就ては、會員の數の程度及び費用の點も有之候事と思惟致し候が、本部には最も前例もあるならんと思ひ候故、一應詳細御報知被下度重れて願上候

福島縣相馬郡　**鈴木常吉氏**

前略、今や本邦の淫風は一朝にして全消滅せんとす是れもとより貴會員御盡瘁の致す所にして、余等こぞつて欣喜滿腔の同情に候。降つて當部落淫風の紊亂に就ては余も亦是が會員の身にあるもの、身は已れにあらずして神の使なり、一意雪霜を踏み哀れなる不遇青年をして光道相輿らしめんが爲救濟方着々として實行中の處、益々其効を奏し、廓清の聲高く之に同ずる者日々多きを加へ、今や十數名の淫風青年も徐に光道に復し神聖なる神の遺韻に跪き、感泣の狀態に候間此段申進候也

淺草區西鳥越町　**中里正次郎氏**

謹啓、小生元より無學無智にして賢明なる諸君と歩調を共にする能はざるものなるにも不拘、會員の席に列せしめられたるは無上の光榮とする所に有之、賢明なる諸彦驥尾に付して聊か社會の爲に盡さん事を期し居候。されば今回生地埼玉に歸國につき運動用として多くの雜誌を賜はり、以御陰廓清運動相試み申候古語にも火の無き處に烟立たず、蒔かぬ種は生へずと申し候へば、警察署長は勿論、警官諸君、村長村吏員其他有力者諸氏に一部づゝ送呈致置候ひし故、他日何れの日にか本縣下にも覺醒したる人士を産むべきかと存候、尚別紙本郡に於ける壯丁檢査成績御參考迄御送付申上候

（記者曰、壯丁檢査表は紙面の都合により本月號中に掲載し得ざりしも、何れ機を見て掲ぐる筈）